

## 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：182社（66.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

### 概 況

#### — 大幅に業況改善するも、マイナスが続く —

前年同期（2020年4月～6月）と比べた今期（2021年4月～6月）の状況  
今期と比べた来期（2021年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲23.6で、前年同期と比べ39.5ポイント上昇しました。昨年同期比の業況は大幅な好転となりましたが、新型コロナウイルス流行前の水準には及ばず、緩やかな回復傾向にあった市内景況は、5月の緊急事態宣言発出や飲食店への営業時間短縮要請などの影響で、再度停滞が懸念されています。観光業を中心に業況が伸び悩み、需要の停滞や原材料価格、商品仕入価格、燃料費の高騰が課題です。

業種別DIは、製造業が同49.4ポイント上昇の▲11.4となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも大幅に好転し、設備操業率DIと引合いDIがプラスに転じましたが、原材料価格の高騰が顕著です。卸売業は同48.2ポイント上昇の▲15.8となりました。売上DIが大幅に好転しましたが、需要の停滞に加え、仕入単価の上昇も大きな課題です。小売業は同54.8ポイント上昇の▲25.9となりました。客単価DIや客数DIが上昇しましたが、回答に占める不変や悪化の割合が大きく、低調な回復にとどまると推測されます。運輸・倉庫業は同38.2ポイント上昇の▲5.5となりました。旅客運送の売上DIが大幅に上昇しましたが、貨物運送は低調な推移にとどまり、倉庫では大幅に低下しました。観光業は同36.1ポイント上昇の▲63.9となりました。業況DI、採算DI、売上DIいずれも大幅に好転しましたが、業況DIと採算DIは回答に占める不変または悪化の割合が9割を超えており、依然として深刻な状況にあります。サービス業は同33.8ポイント上昇の▲30.5となりました。飲食業では全ての企業が採算と資金繰りが悪化したと回答しています。需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同16.0ポイント上昇の▲12.5となりました。業況DIは上昇しましたが、売上DIと採算DIは低下しました。建設業では長期に渡り、従業員の確保難が経営上の問題点の1位でしたが、今期は材料価格の上昇が最大の課題となっており、影響の大きさが伺えます。

来期の業況判断DIは▲11.0で、悪化傾向が弱まると予想しています。新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大によって人流の回復が期待される一方で、ワクチン接種の停滞や変異株の流行が懸念されています。コロナ禍が終息しても景気回復には時間がかかり、国民の生活様式は当面の間元に戻らないのではないかと懸念もあり、予断を許さない状況が続くと思われます。

業況、売上、採算

今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲23.6で、前年同期(2021.4～6)と比べ39.5ポイント上昇し、大幅に好転しました。

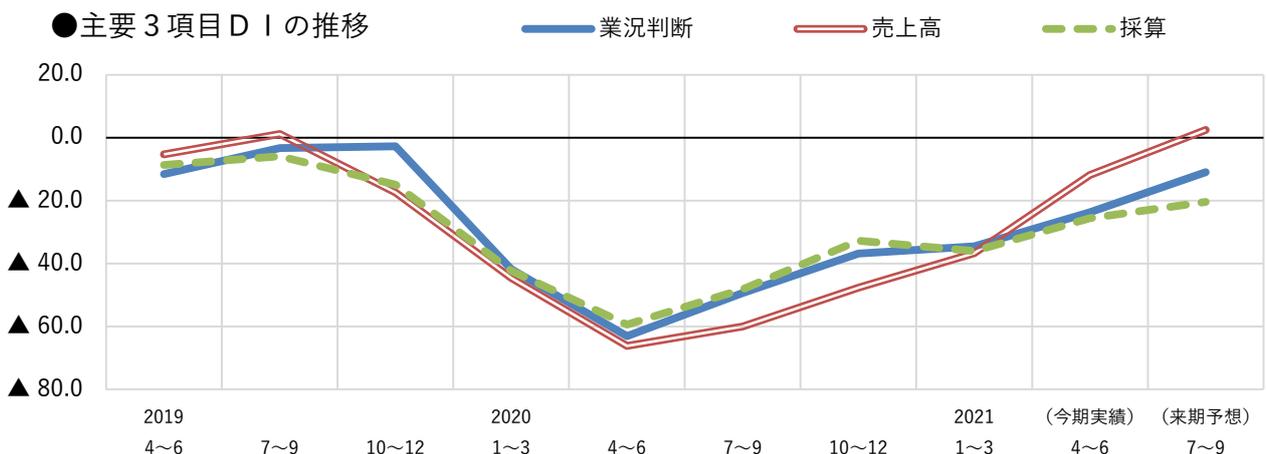
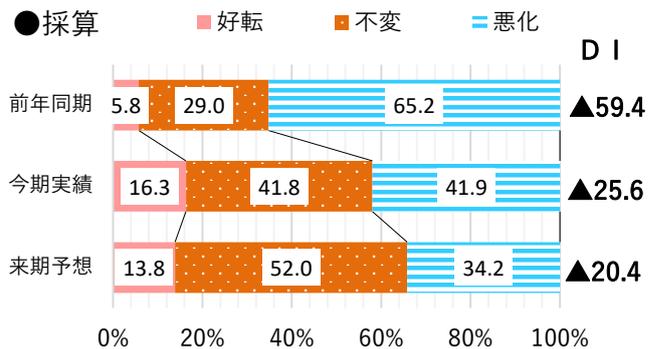
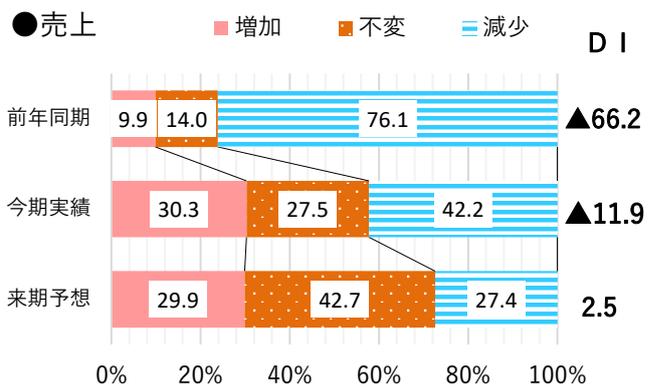
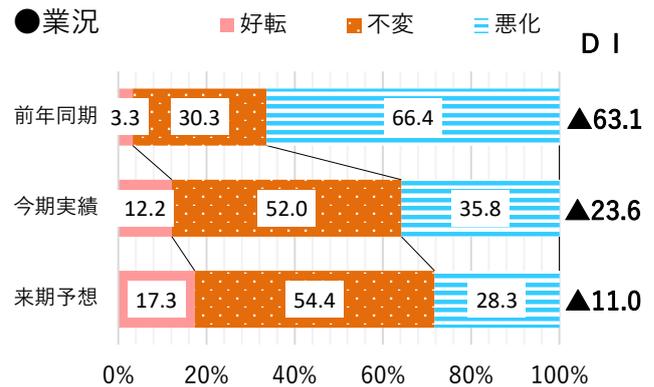
来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲11.9で、前年同期と比べ54.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲25.6で、前年同期と比べ33.8ポイント上昇し、大幅に好転しました。

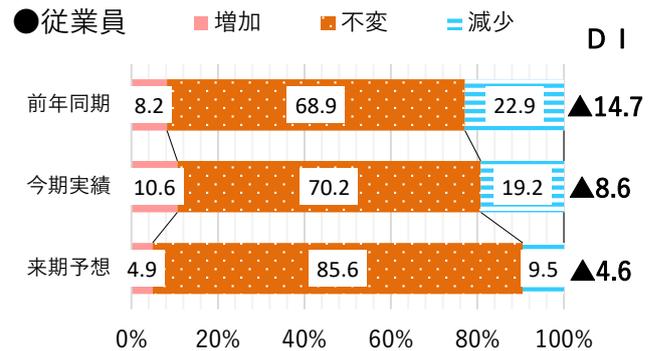
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



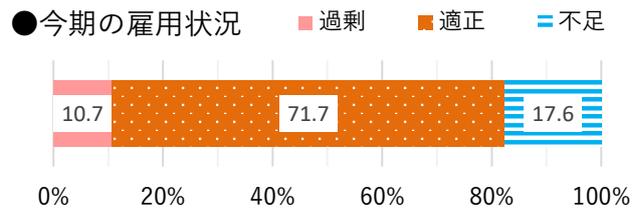
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.6で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は10.7%、適正であると回答した企業の割合は71.7%、不足していると回答した企業の割合は17.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の52.7%を占めています。

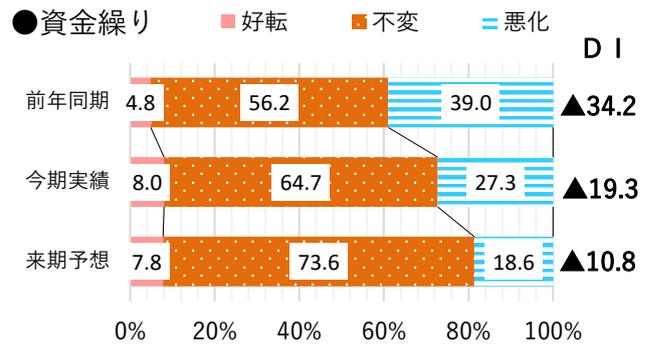
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	3
	適正	14
	不足	1
不変だった	過剰	12
	適正	96
	不足	19
減少した	過剰	9
	適正	18
	不足	10

資金繰り、設備投資

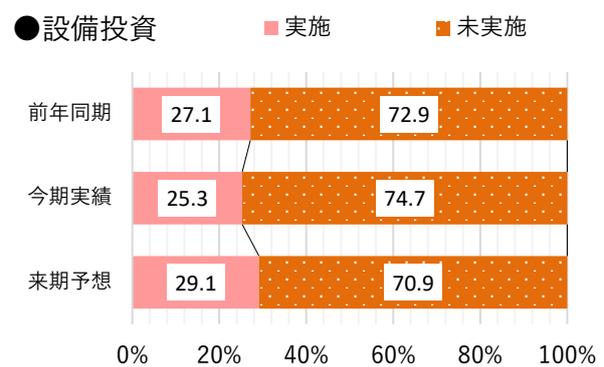
今期の資金繰りDIは▲19.3で、前年同期と比べ14.9ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった182社の25.3%にあたる46社が実施、前年同期と比べ1.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」、「OA機器」(同位)の順です。

来期は、29.1%にあたる53社が設備投資を計画していると回答しています。

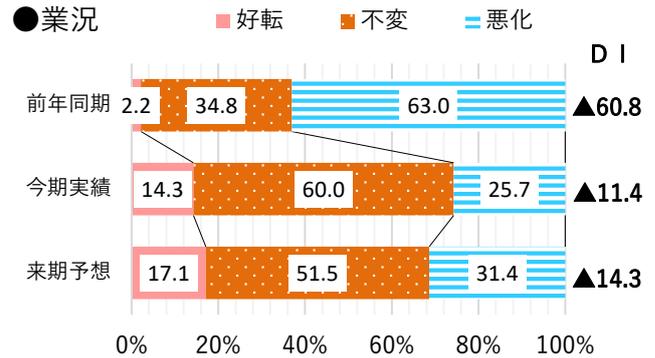


# 製造業

## 業況、売上、採算

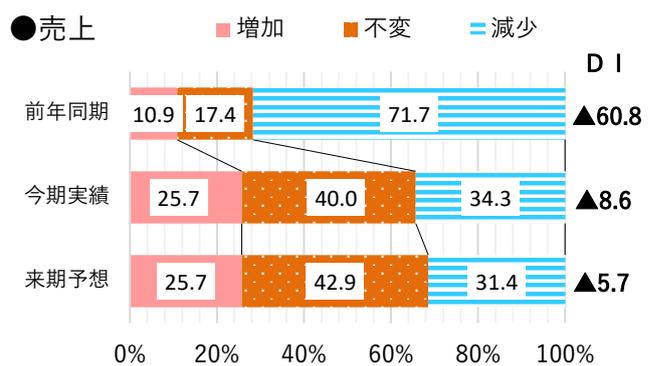
今期(2021.4~6)の業況判断DIは▲11.4で、前年同期(2020.4~6)と比べ49.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.7~9)は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



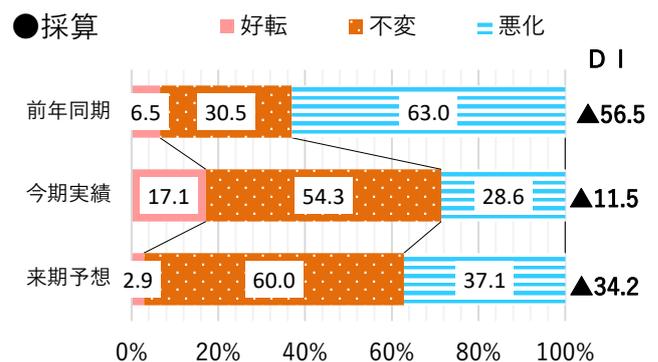
今期の売上DIは▲8.6で、前年同期と比べ52.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上に大きな変化はないと予想しています。

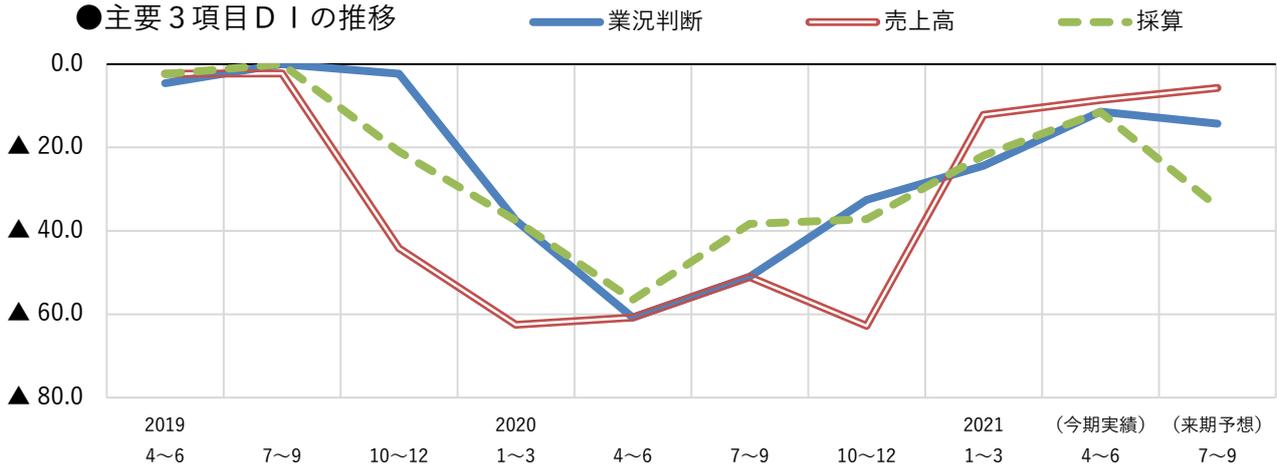


今期の採算DIは▲11.5で、前年同期と比べ45.0ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



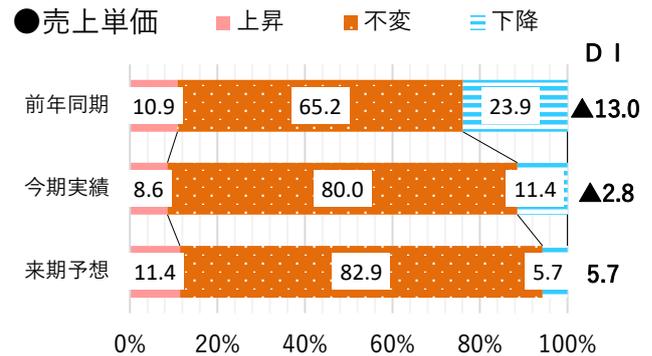
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

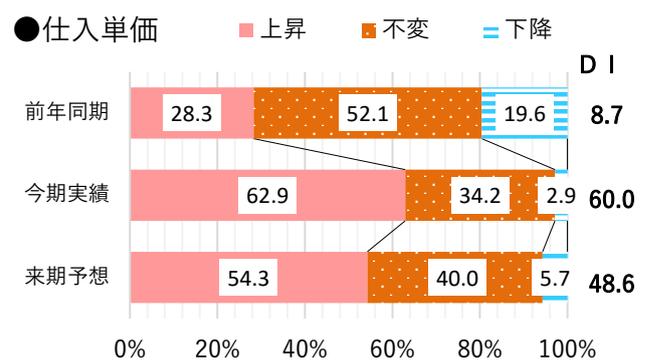
今期の売上単価DIは▲2.8で、前年同期と比べ10.2ポイント上昇しました。

来期は、売上単価が上昇に転じると予想しています。



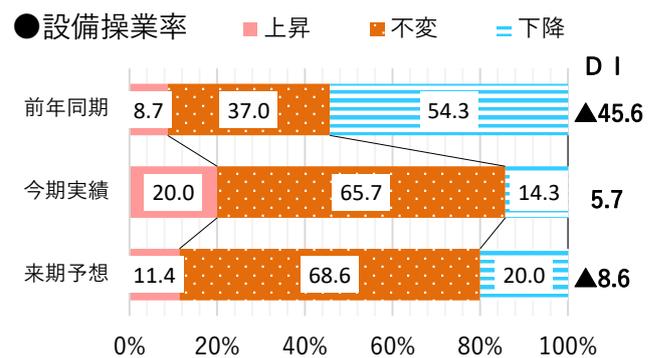
今期の仕入単価DIは60.0で、前年同期と比べ51.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは5.7で、前年同期と比べ51.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

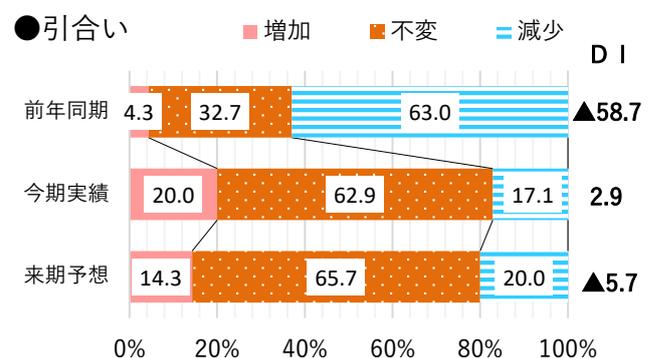
来期は、設備操業率が下降に転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは2.9で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

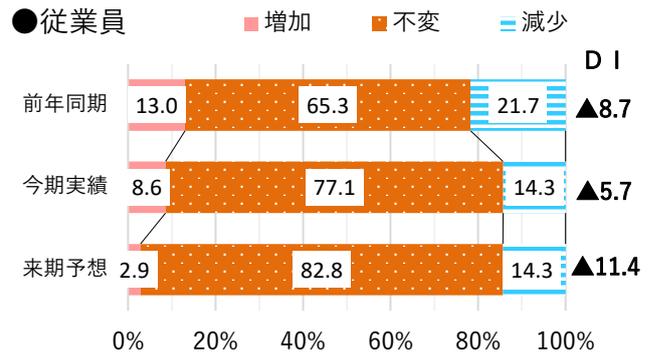
来期は、引合いが減少に転じると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.7で、前年同期と比べ3.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は17.1%、適正であると回答した企業の割合は65.8%、不足していると回答した企業の割合は17.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の51.4%を占めています。

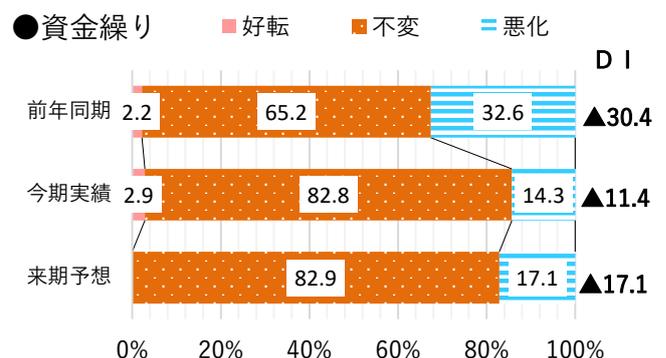
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	4
	適正	18
	不足	5
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

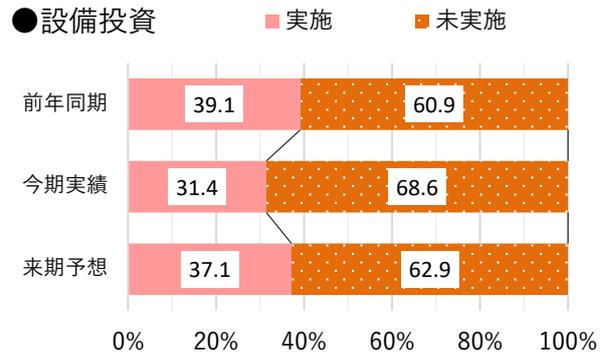
今期の資金繰りDIは▲11.4で、前年同期と比べ19.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



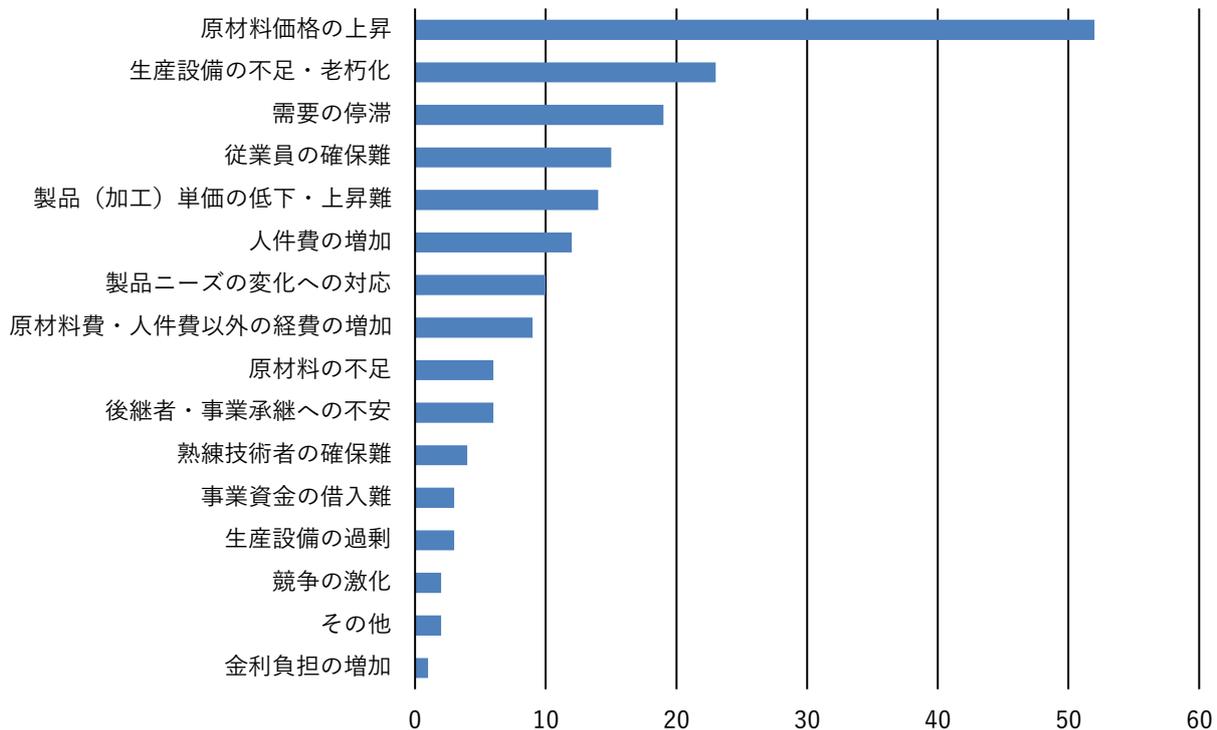
設備投資を実施した企業の割合は31.4%で、前年同期と比べ7.7%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.1%で、増加を予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「需要の停滞」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 木材価格の高騰による住宅価格、住宅着工戸数への影響を注視する。（金属製品）
- 業務内容や販売先の再検討に取り組んでいる。（金属製品）
- 材料の値上がり、品薄が続いている。（金属製品）
- コロナ禍のため、先行きに不安を感じている。（ゴム製品）
- 2020年度と比較した場合、売上はほぼ不変だが、コロナ禍前の2019年度と比較した場合、売上は10%程低下した。昨年度比の原油価格は上昇したため、原材料仕入価格も上昇した。（プラスチック）
- 原材料仕入単価の高騰により、価格転嫁が非常に難しい状況にある。（プラスチック）

- 売上の順延等が生じ、苦勞している。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの影響で受注件数が減少し、資金繰りが悪化した。（その他繊維製品）
- 昨年はコロナ禍による特需のため、レトルト食品の売上が好調だったが、今期は低迷した。人材の確保と仕入の管理に問題はない。（食料品）
- 前年同期比では好転したが、一昨年同期比では50%の売上となった。まだ先が見えない状況であることに変わりない。（食料品）
- 原材料価格、包装資材価格、光熱費が上昇傾向にあり、経費の削減に努めることで前年同期並みの利益を維持できている。（食料品）
- 主力商品である数の子の原料価格が高騰した。数の子以外の水産加工品の販売額が増加した。（食料品）
- 原材料価格の値上げが増加しており、卸価格に転嫁できないため、厳しい状況にある。（食料品）
- アフターコロナを見据え、従業員を雇用した。（食料品）
- コロナ禍の影響は無く、昨年と変わらない。（食料品）
- 原材料価格が上昇した。（食料品）
- 巣ごもり需要によって、売上は好調だった。（飲料）

## [来期の業況について]

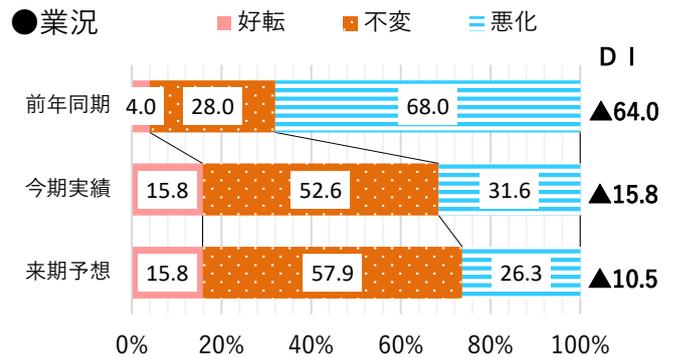
- 新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗に左右される。接種が遅れる場合、顧客の業務に悪影響が生じると思われる。（金属製品）
- 需要の回復を見込む。（ゴム製品）
- 原材料費の上昇を見込むが、市況が悪化しており、価格転嫁のタイミングが難しい。（プラスチック）
- 業況の回復に至らず、売上の増加は10月以降にずれ込むと思われる。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの影響で、需要の落ち込みが懸念される。（衣服）
- 新型コロナウイルスによる業況の悪化からどの程度回復できるのか、官公庁からの受注件数が減少しないかといった点を不安に感じている。（その他繊維製品）
- オリンピック、パラリンピックに多少期待していたが、ワクチン接種が大幅に進まなければ状況は改善しないと見られる。（食料品）
- 原材料価格や包装資材価格の動向、最低賃金改定の結果次第では業況が悪化すると見られる。（食料品）
- 販売方法や戦略を模索しながら、製品在庫の適正化や利益の増加を図る。（食料品）
- 仕入価格、仕入数量の見通しが立たない。（食料品）
- 引合いが来ており、売上の増加を見込む。（食料品）
- 原材料価格が高騰すると見られる。（食料品）
- 今期と変わらないと思われる。（食料品）
- 不透明だが、巣ごもり需要の持続に期待する。（飲料）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

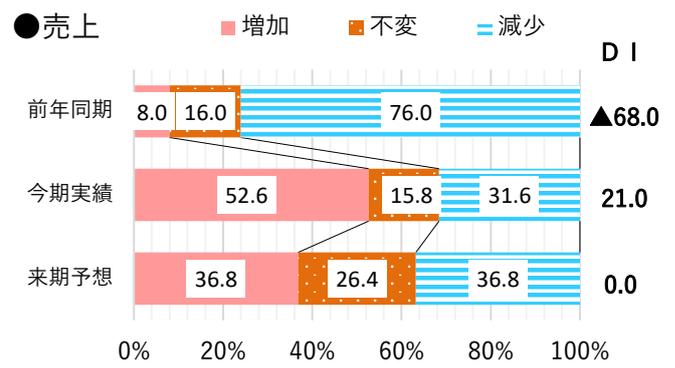
今期(2021.4～6)の業況判断DIは▲15.8で、前年同期(2020.4～6)と比べ48.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.7～9)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



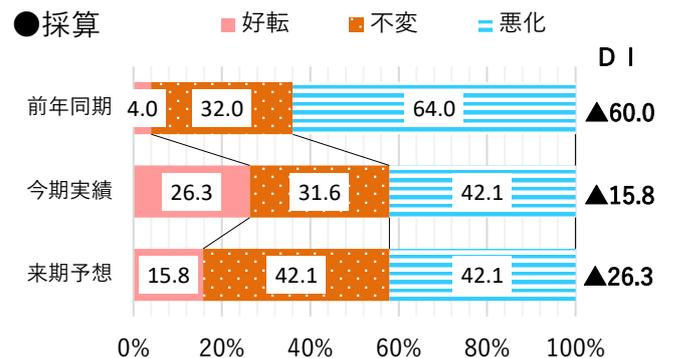
今期の売上DIは21.0で、前年同期と比べ89.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

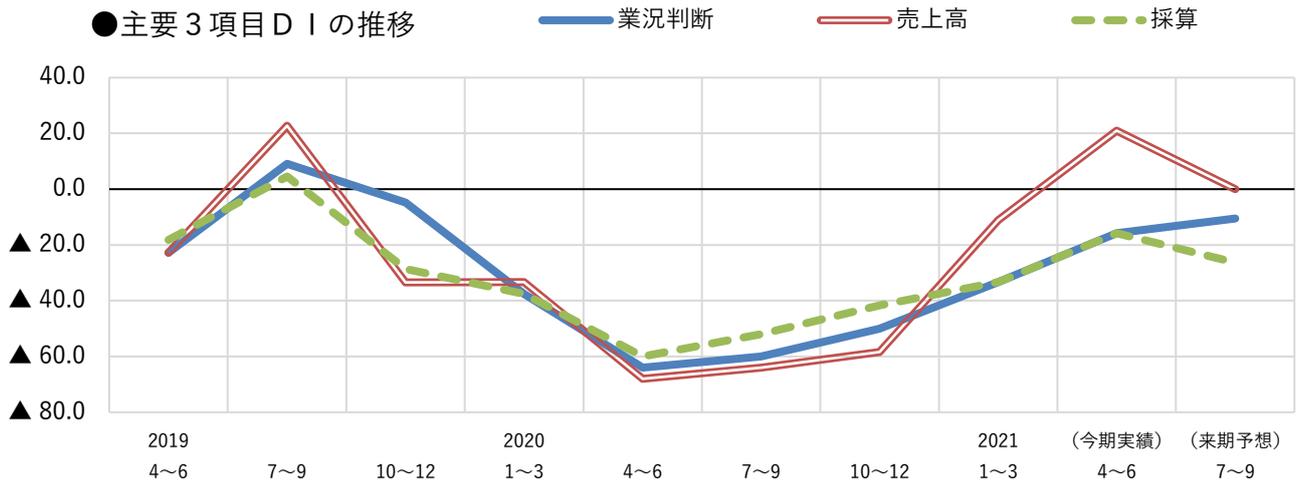


今期の採算DIは▲15.8で、前年同期と比べ44.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



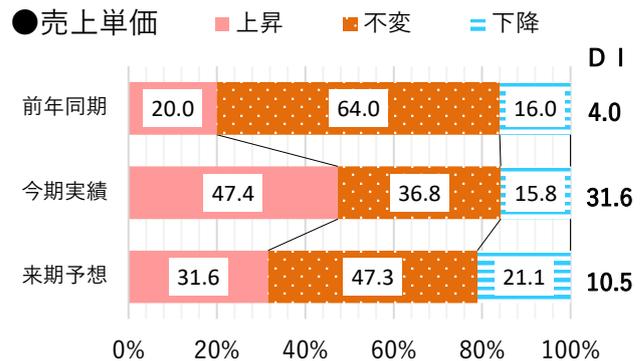
●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

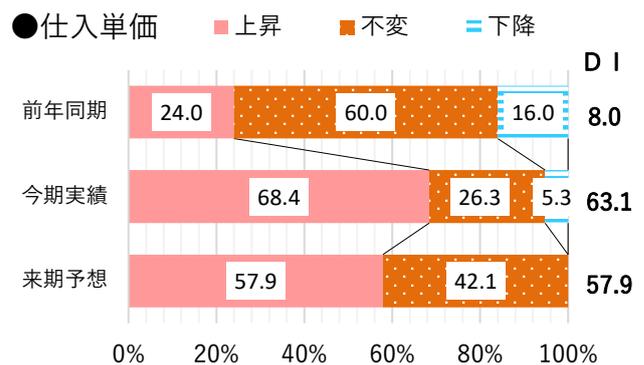
今期の売上単価DIは31.6で、前年同期と比べ27.6ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは63.1で、前年同期と比べ55.1ポイントと大幅に上昇しました。

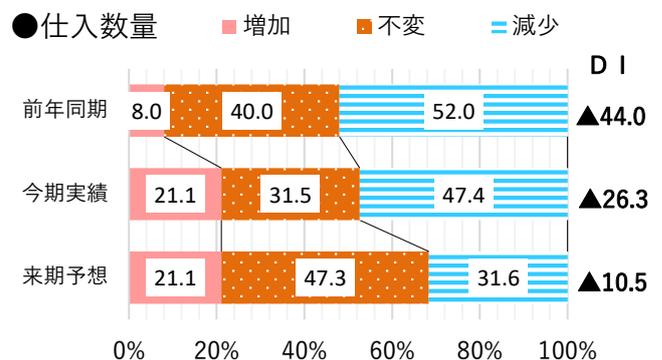
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

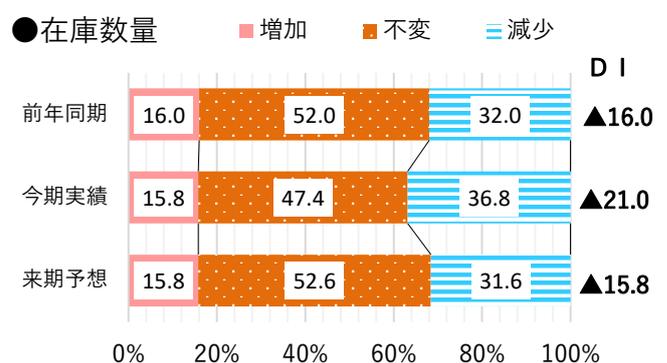
今期の仕入数量DIは▲26.3で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲21.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下しました。

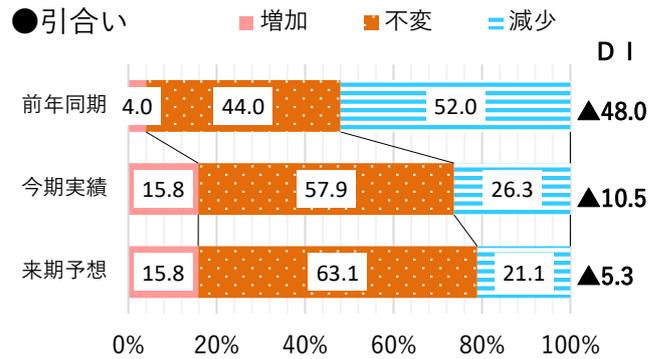
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは▲10.5で、前年同期と比べ37.5ポイント上昇し、大幅に増加しました。

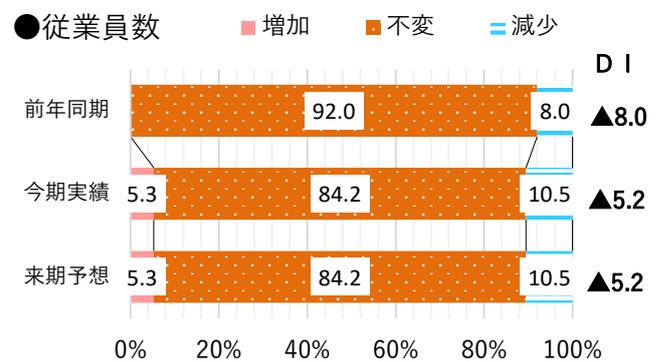
来期は、引合いの減少傾向が続くと予想しています。



## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.2で、前年同期と比べ2.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、全ての企業が適正であると回答しました。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の84.2%を占めています。

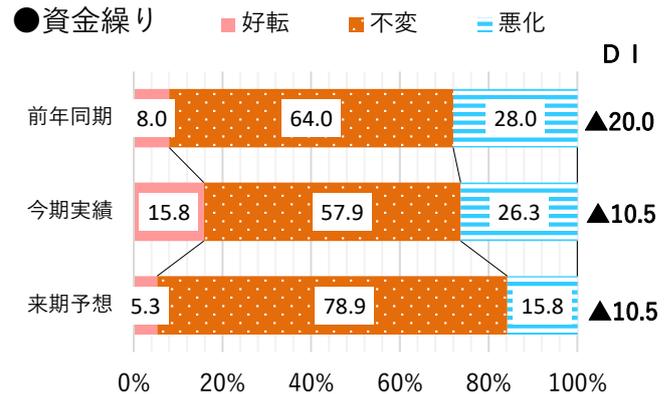
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	16
	不足	0
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

## 資金繰り、設備投資

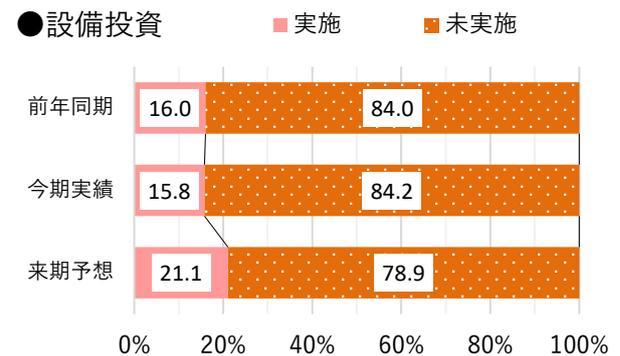
今期の資金繰りDIは▲10.5で、前年同期と比べ9.5ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



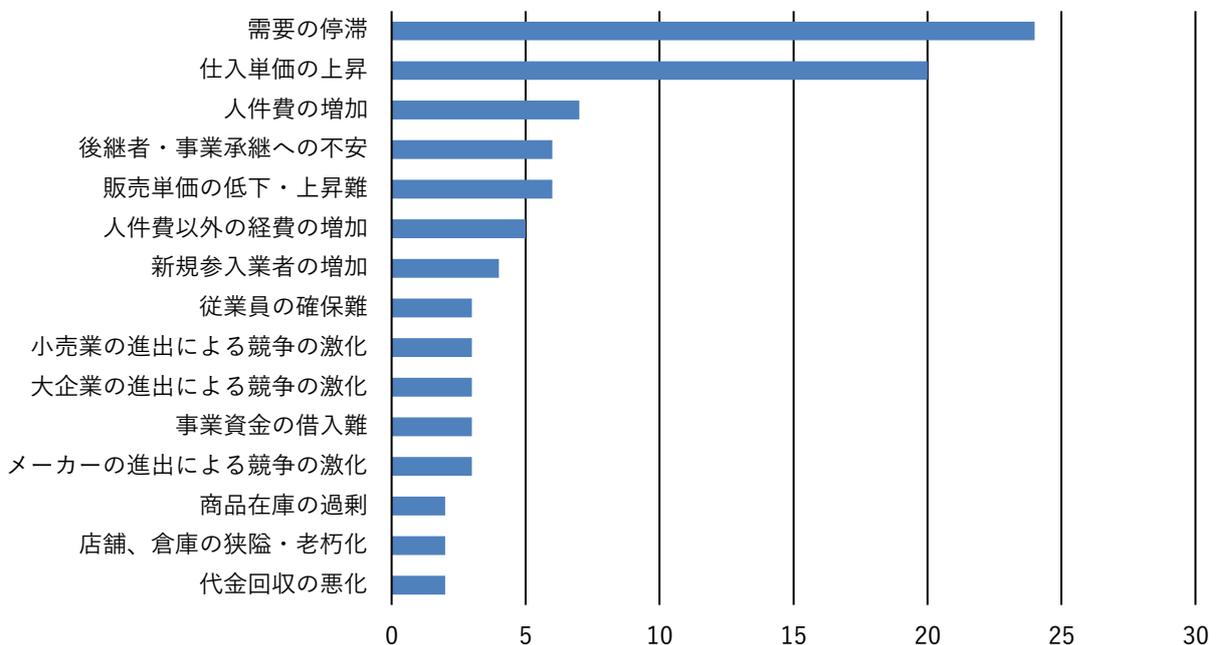
設備投資を実施した企業の割合は15.8%で、前年同期と比べ0.2%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「O A 機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.1%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- アメリカを中心に、ワクチン接種率の上昇とともに原油価格が上昇傾向にあるが、日本はワクチンの供給が遅れているため、原油価格の上昇は来期にずれ込むと思われる。(石油卸売)
- 小樽、赤井川地区の新幹線工事がピークに入ったため、売上が増加した。(建築材料卸売)
- コロナ禍による売上減少に対し、飲食店には多様な補助制度がある一方で、飲食店への納入業者や他の業種への補助は弱いと思う。制度の拡充を期待する。(食料・飲料卸売)
- 新型コロナウイルスの影響で取引先の経営が悪化し、自社も売上が減少した。(食料・飲料卸売)
- 新型コロナウイルスの影響で売上が減少した。(食料・飲料卸売)
- 売上、収益ともに増加した。(食料・飲料卸売)
- 前年同期の売上を上回ったため、安心している。(自動車部品卸売)
- 宿泊業、飲食業が回復しなければ、売上は増加しない。官公庁への売上も伸び悩んだ。(事務用品卸売)
- 一部の取引先への販売額は、新型コロナウイルス流行前の水準まで回復しつつあり、売上は少し増加した。コロナ禍での生活に慣れた人が増えてきているように感じる。(塗料卸売)
- 急に仕入価格が上昇し、販売価格への転嫁に苦労している。(鉱物・金属材料卸売)

## [来期の業況について]

- 新幹線工事による好況が続くと思われる。(建築材料卸売)
- 売上は増加するが、収益は減少すると思われる。(食料・飲料卸売)
- 状況が改善しなければ、見通しが立たない。(食料・飲料卸売)
- コロナ禍による外出自粛等により、売上が減少した。(食料・飲料卸売)
- コロナ禍が終息し、従来の仕事の流れに戻ってほしい。苦境を乗り越える方策を考える。(自動車部品卸売)
- ワクチンの接種件数が増加すれば、少しずつコロナ禍以前の生活に戻り、売上が回復するのではないかと期待している。(塗料卸売)
- 仕入価格の上昇が決定的で、販売価格へ転嫁するしかない。需要は停滞を見込む。(鉱物・金属材料卸売)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

今期(2021.4~6)の業況判断DIは▲25.9で、前年同期(2020.4~6)と比べ54.8ポイント上昇し、大幅に好転しました。

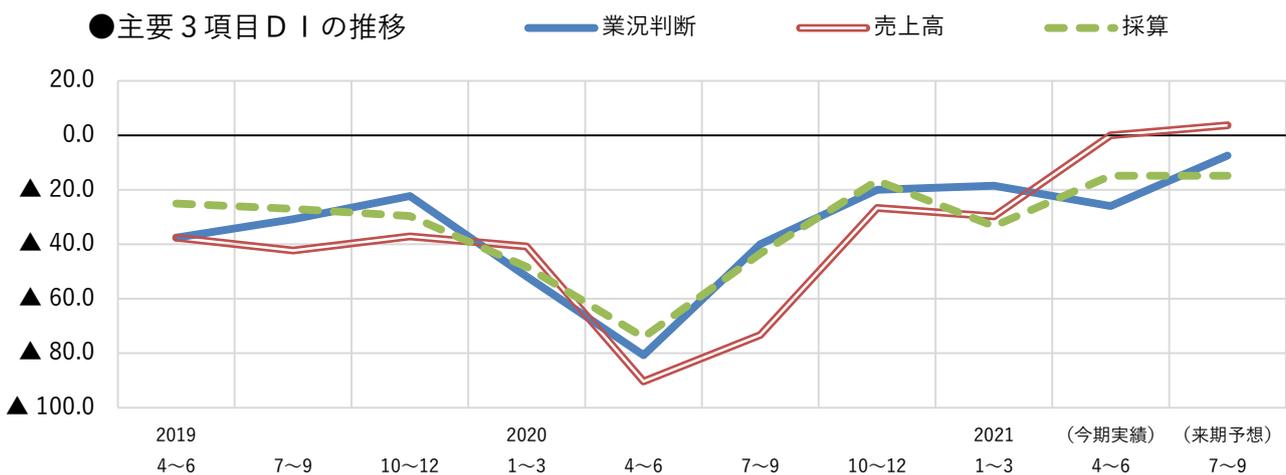
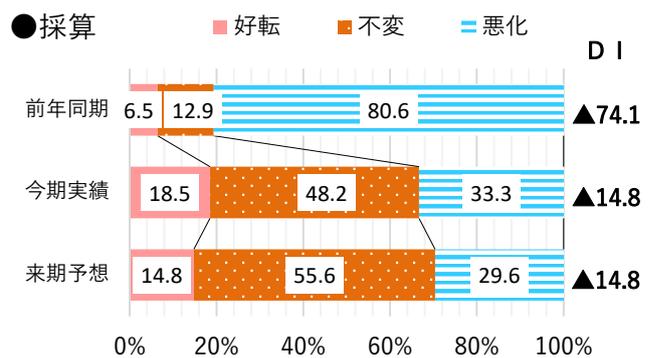
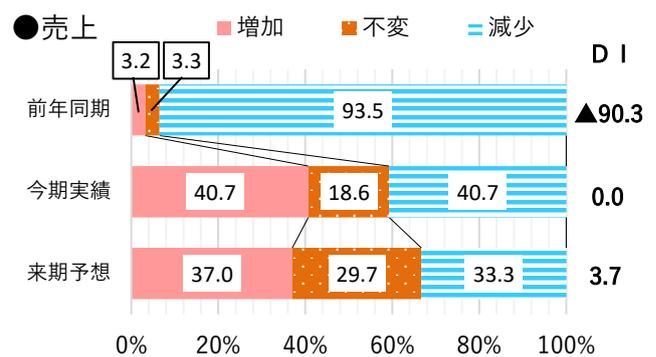
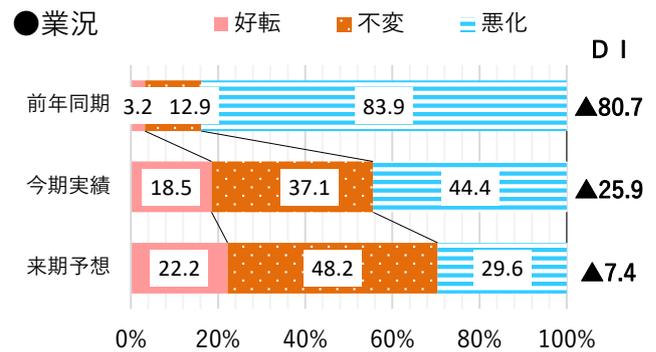
来期(2021.7~9)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ90.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲14.8で、前年同期と比べ59.3ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



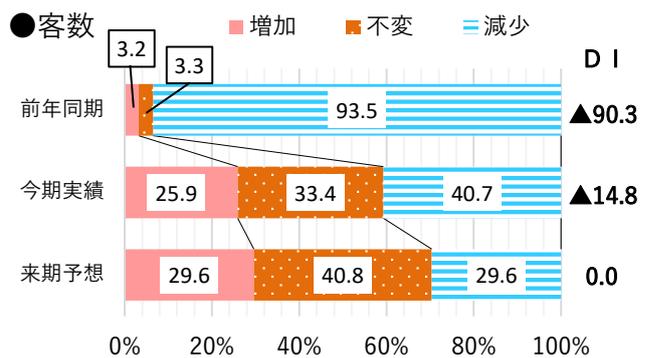
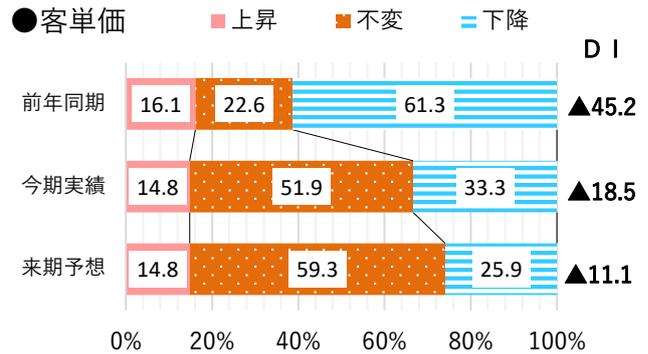
客単価、客数

今期の客単価DIは▲18.5で、前年同期と比べ26.7ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。

今期の客数DIは▲14.8で、前年同期と比べ75.5ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



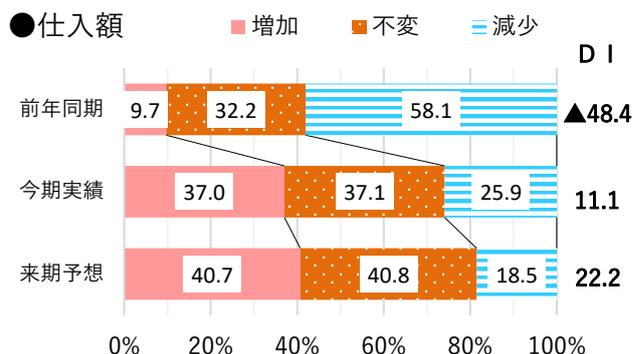
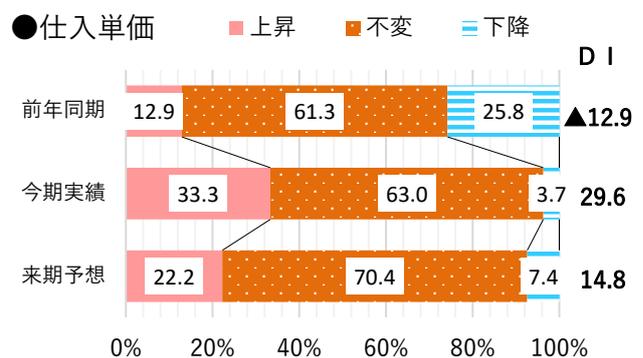
商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

今期の仕入単価DIは29.6で、前年同期と比べ42.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。

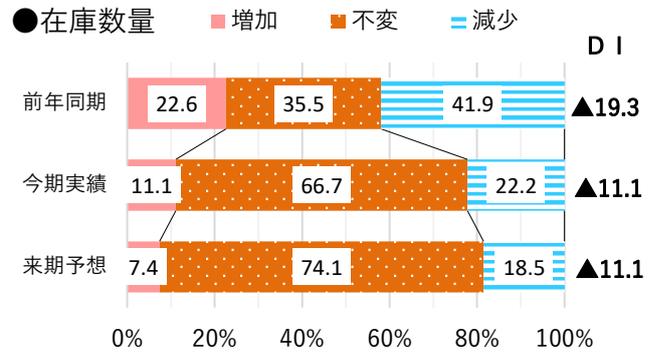
今期の仕入額DIは11.1で、前年同期と比べ59.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入額の増加傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲11.1で、前年同期と比べ8.2ポイント上昇しました。

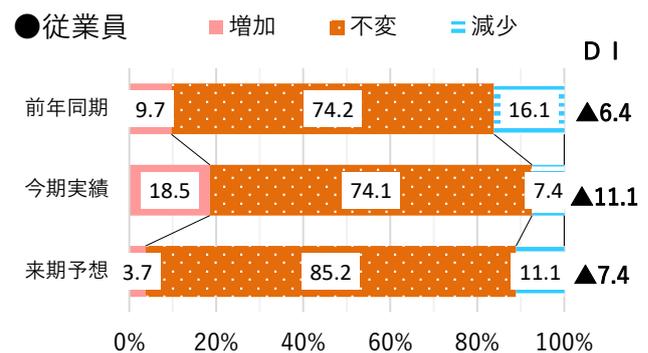
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



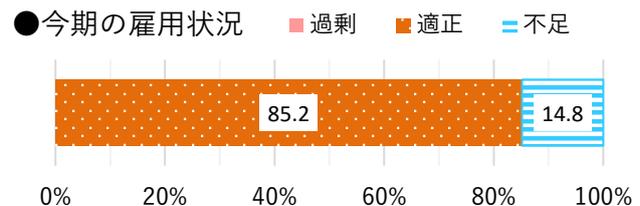
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は85.2%、不足していると回答した企業の割合は14.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の62.9%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	17
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

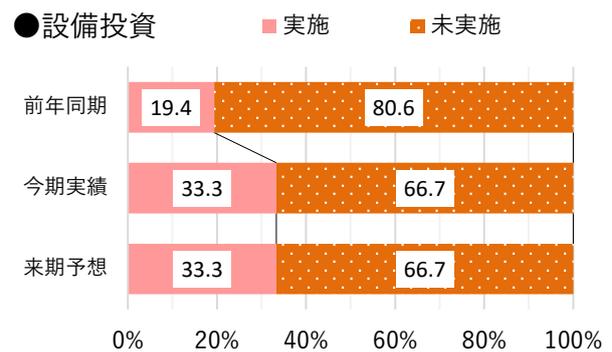
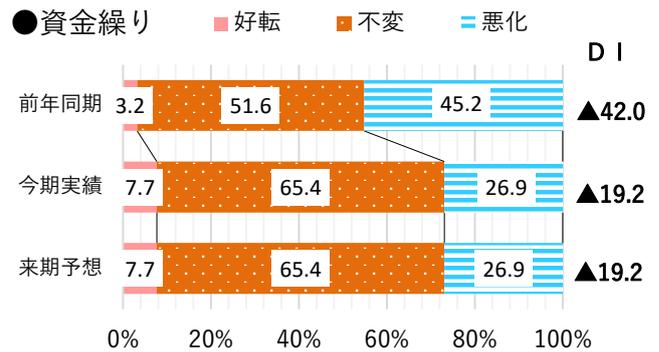
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲19.2で、前年同期と比べ22.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。

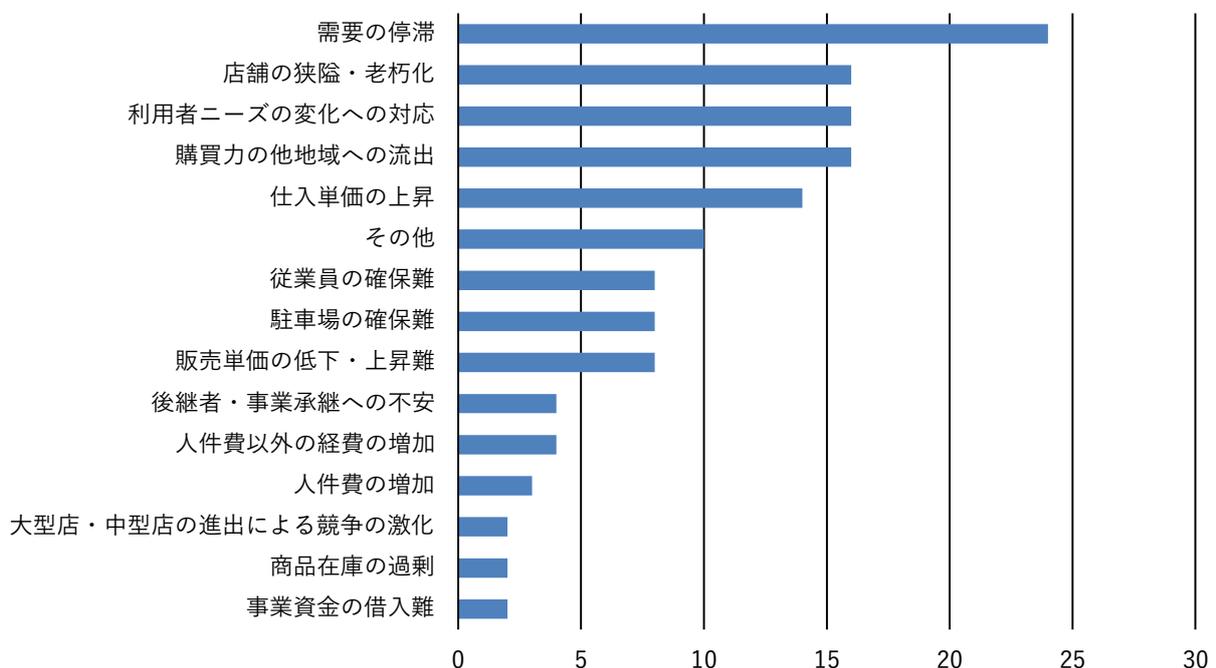
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ13.9%増加しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「店舗」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」（同位）、3位が「仕入単価の上昇」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 観光関連施設、宿泊業、飲食業への売上が低迷した。店頭小売額は微減だが、ネット販売額は新店舗を開設したこともあり、やや増加した。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの感染者が発覚したことで、市場2棟が営業停止となり、売上の減少が著しい。(食肉小売)
- コロナ禍によるお土産の需要減少や、法要や葬儀が親族のみで行われるようになったことによる引き出物の需要減少により、業況が徐々に悪化している。(菓子製造小売)
- 緊急事態宣言によってイベントが中止となり、業況が悪化した。(菓子製造小売)
- 昨年同期比で業況は好転した。店舗数の増加により、人員が不足している。(衣服・身の回り品小売)
- 売上、利用客数ともに増減は無かった。(衣服・身の回り品小売)
- 緊急事態宣言により、客数が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 前年度から予定していた工事に着工したことで、売上が増加した。前年度も売上を維持できており、業況は良いが、常に危機感を持っている。(家具・建具・畳小売)
- コロナ禍のため、自動車を利用した日帰り旅行や近場への旅行が増え、売上が増加した。(自動車小売)
- 融資を受けることができたため、正常に営業できた。(自動車小売)
- 半導体の不足により、新車の納期が遅れた。(自動車小売)
- 原油価格の上昇によって、売上が増加した。(燃料小売)
- 新型コロナウイルス第3波が落ち着いた頃から売上が増加したが、4月以降の第4波で再び減少した。コロナ禍が客足に影響する限り、業況は回復しない。昨年同期比の業況は好転したが、全国で緊急事態宣言が発出されていた時期との比較なので、好転は当然の結果だと思う。小売業全体では、小売店やスーパーマーケットと大型店の間で、一方が好転すればもう一方が悪化する状況が続いている。(大型店)
- 前年同期比の売上、客数は共に減少傾向にあったが、5月下旬～6月上旬にかけて、前年の売上を超える日が続いた。(大型店)
- 売上、客数ともに減少した。従業員の減少に対しては、部署間での異動で調整した。(大型店)
- コロナ禍のため、飲食店への納品量が減少傾向にあるが、昨年同期比では増加した。(コンビニ)
- コロナ禍で客数と売上が減少した。(コンビニ)
- 外出自粛が続き、客数が減少した。先行きの不安からか、客単価も下降した。今後は雇用の整理が必要になるかもしれない。(ドラッグストア)
- 10万円の特別定額給付金が給付された前年同期と比べると、売上は減少した。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスによるイベントの規模縮小、減少で業況が悪化した。(花・植木小売)
- 採用を増やし、人材を確保した。(ホームセンター)

## [来期の業況について]

- ワクチン接種と治療薬研究が進み、コロナ禍は改善されると思う。人の往来が増加し、観光業や飲食業が活発化することで、経済活動が回復することを期待している。非接触型の決済や購買行動は、これからも静かに増え続けると思う。(食料品小売)
- 売上の減少が続くと思われる。(食肉小売)
- 例年需要が増加する時期なので、売上は増加すると思われるが、コロナ禍前の水準まで回復するかは分からない。(菓子製造小売)
- 7月に大口の注文が見込めるため、売上は増加を予想する。(菓子製造小売)
- ワクチンの接種が進み、売上が増加すると思われる。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルス変異株の拡大が懸念される。ワクチンの接種によって1日も早くコロナ禍が終息し、活気のあるまちになることを望む。(衣服・身の回り品小売)
- 今期と変わらずに推移すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 今期の新型コロナウイルスの動向に左右されるので、見通しは立たない。(家具・建具・畳小売)

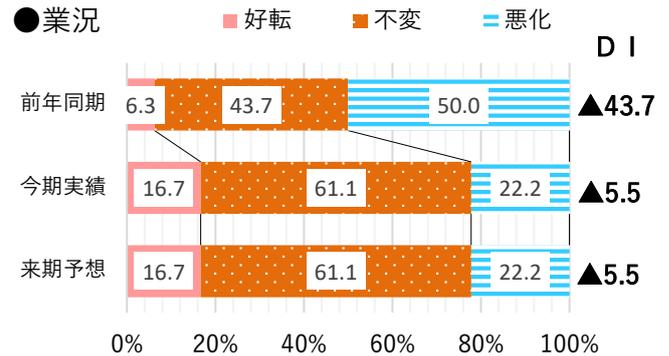
- ワクチンによってコロナ禍が終息に近づくとと思われるが、国民の移動手段が電車、飛行機、船等多様化することで、自動車の売上は減少するだろう。（自動車小売）
- 業況の悪化を見込む。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスの状況次第だが、昨年同期より悪化することは無いと思う。少しでも早くコロナ禍前の売上に戻るように努力する。今期は老朽化した冷蔵ケースの一部入れ替えを実施しており、設備投資に対するリターンも見込んでいる。（大型店）
- 現在の傾向から多少の回復を見込むが、インバウンドの減少や公共交通機関の減便も予想されるため、昨年度の業績は期待できない。（大型店）
- 前年並みか、やや減少の売上になるとと思われる。（大型店）
- 気温に左右されるが、夏期の需要を取り込んで、売上を確保したい。（コンビニ）
- 消費を喚起するような出来事は無いと思われるので、売上と客数は減少を見込む。（家電量販店）
- 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかという点に大きく左右される。オリンピックの開催によって、良い影響が生じるのかも不安に感じている。（ドラッグストア）
- コロナ禍が終息しても、以前の状況には戻らないのではないか。（花・植木小売）
- 新型コロナウイルスの影響が続き、景気の回復は期待できない。売上は減少を見込む。（ホームセンター）

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

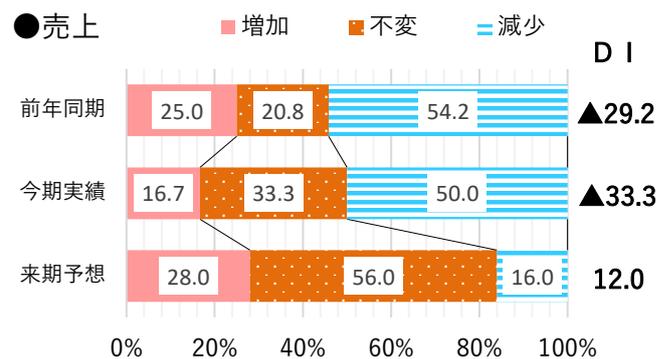
今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲5.5で、前年同期（2020.4～6）と比べ38.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期（2021.7～9）は、業況の横ばいを予想しています。



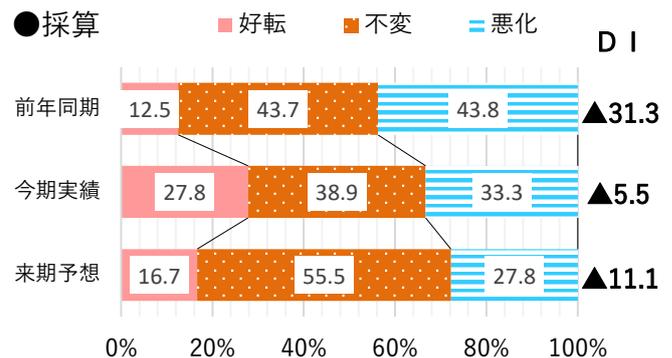
今期の売上高DIは▲33.3で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

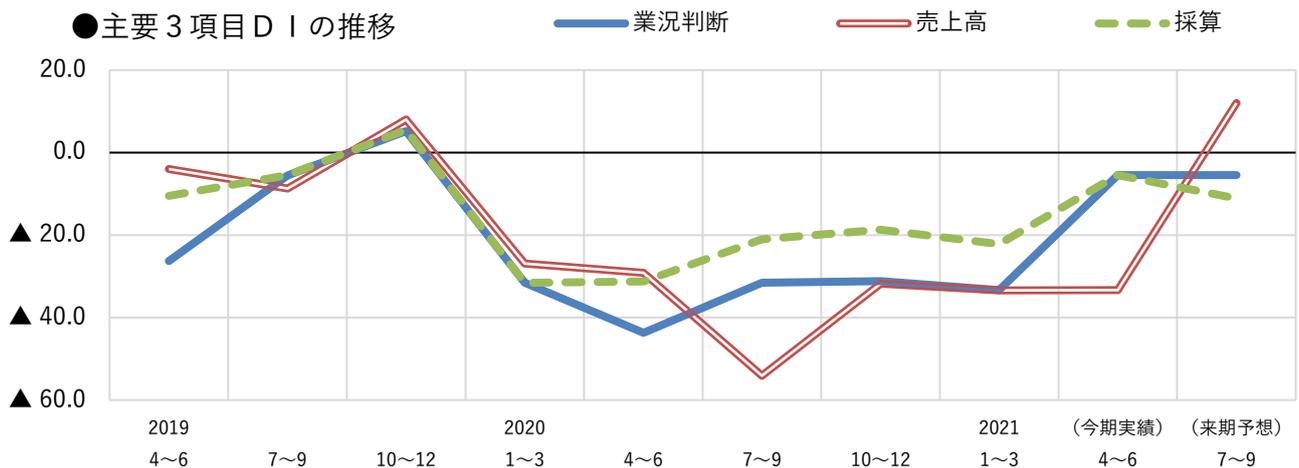


今期の採算DIは▲5.5で、前年同期と比べ25.8ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



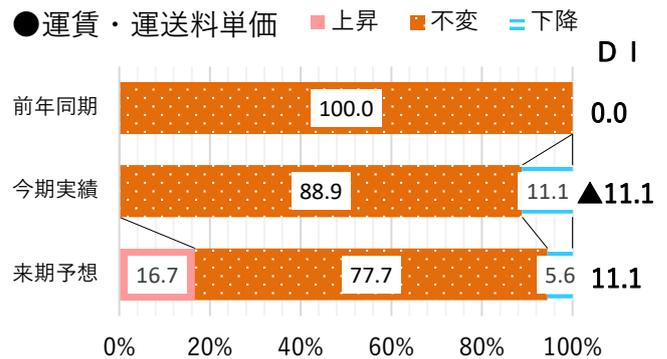
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

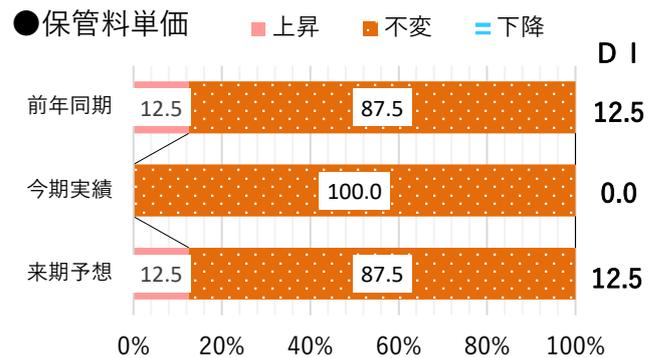
今期の運賃・運送料単価DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価が上昇に転じると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

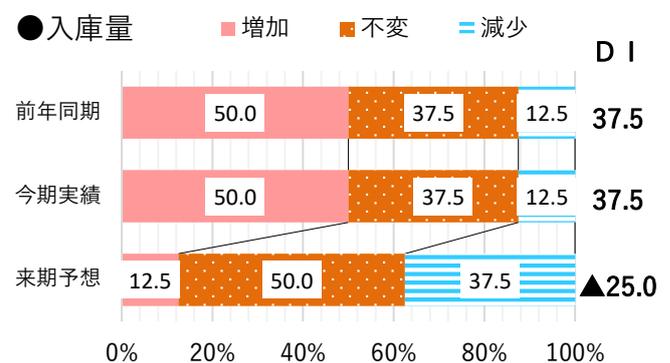
来期は、保管料単価が上昇に転じると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

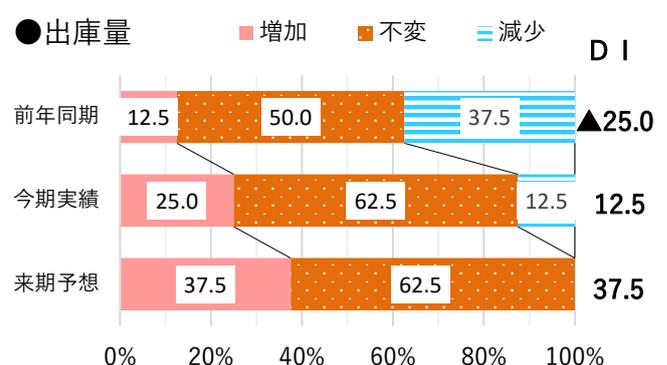
今期の入庫量DIは37.5で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、入庫量が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



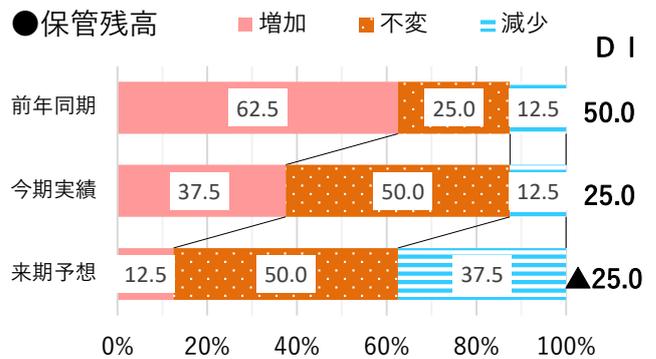
今期の出庫量DIは12.5で、前年同期と比べ37.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは25.0で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

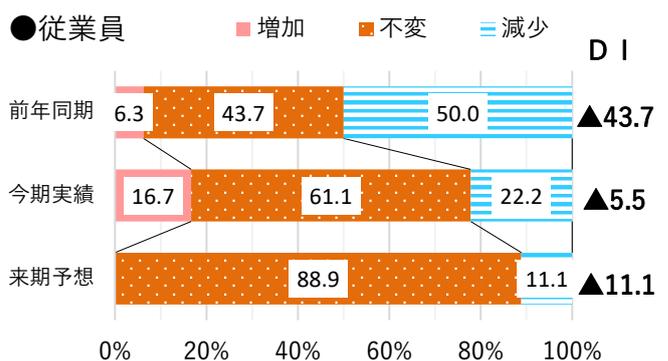
来期は、保管残高が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.5で、前年同期と比べ38.2ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、従業員の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は66.6%、不足していると回答した企業の割合は27.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の50.0%を占めています。

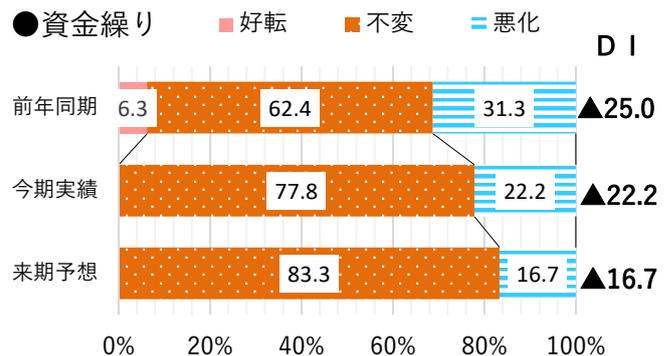
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	9
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

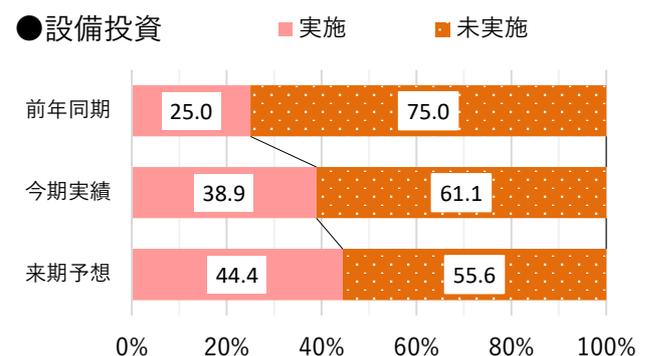
今期の資金繰りDIは▲22.2で、前年同期と比べ2.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



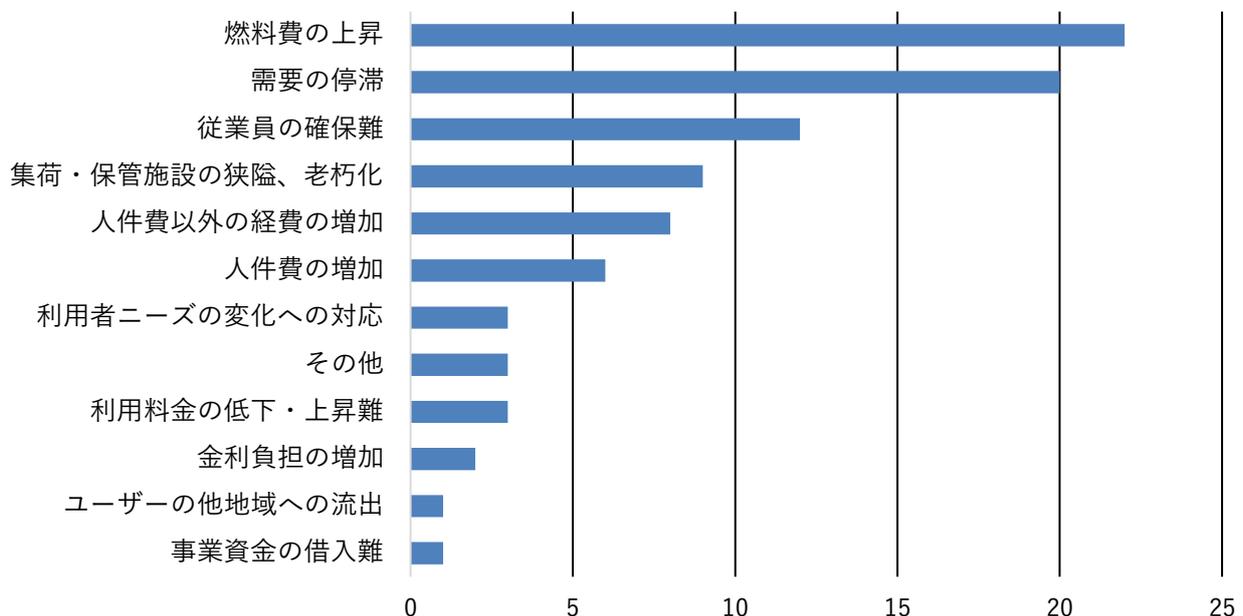
設備投資を実施した企業の割合は38.9%で、前年同期と比べ13.9ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設の狭隘、老朽化」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.4%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 燃料単価が高騰し、収益が減少した。前年同期は大手の製麺、製パン企業向け出荷量が過去最高だったが、今期は中小製麺、製パン企業向けの出荷量が激減したまま回復しなかった。(道路貨物運送)
- 運輸部門の売上は前期を下回ったが、建設部門が伸長し、会社全体の業況は好転した。(道路貨物運送)
- 自動車、内麦・米等の貨物や倉庫への在庫量減少により、売上と収益が減少した。(道路貨物運送)
- 燃料価格が上昇した。昨年度と比べ巣ごもり需要が減少し、売上が減少した。(道路貨物運送)
- ドライバーを補充できなかったため、売上が減少した。(道路貨物運送)
- 緊急事態宣言によって人流が止まり、売上は昨年同様最悪の水準だった。また、社会保険料と税の猶予期間の終了や、補助金の減少によって資金繰りが悪化した。(道路旅客運送)
- 外出自粛の要請によって人流が大きく減少し、業況は最悪な状況にある。また、人材確保が非常に厳しい。(道路旅客運送)
- 飲料の輸送量の減少や、インバウンドの減少によって売上が減少した。(港湾運送)
- 緊急事態宣言発出に伴う外出自粛の要請があったが、ゴールデンウィーク中は旅客の利用が増加した。貨物の利用台数は増加したが、運賃改定によって売上が減少した。燃料価格は上昇傾向にある。(水運)
- 在庫量の増加によって、売上額が伸びている。(倉庫)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの早期収束と出荷量の回復に期待しつつ、運賃値上げ交渉を進める。(道路貨物運送)
- 燃料価格が上昇しているため、運送単価を見直したいが、荷主との交渉に不安を感じる。(道路貨物運送)
- 燃料価格の上昇が懸念される。(道路貨物運送)
- 緊急事態宣言の解除によって売上は回復するかもしれないが、大きな改善は見込めない。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスの影響による旅客の利用自粛と、燃料価格の上昇が懸念される。(水運)
- 在庫量の減少に加え、出庫量の増加が予想される。(倉庫)

# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲63.9で、前年同期(2020.4～6)と比べ36.1ポイント上昇し、大幅に好転しました。

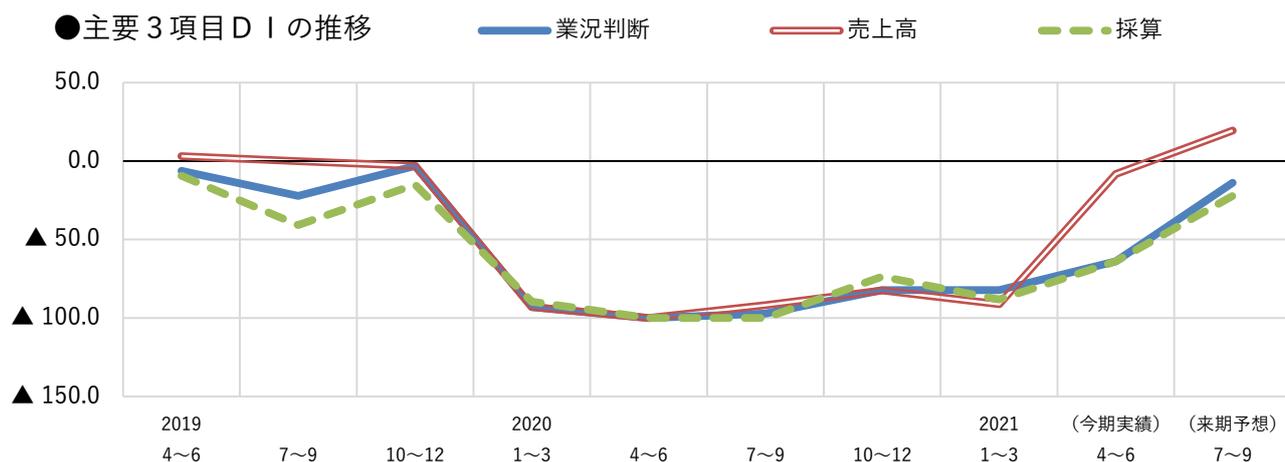
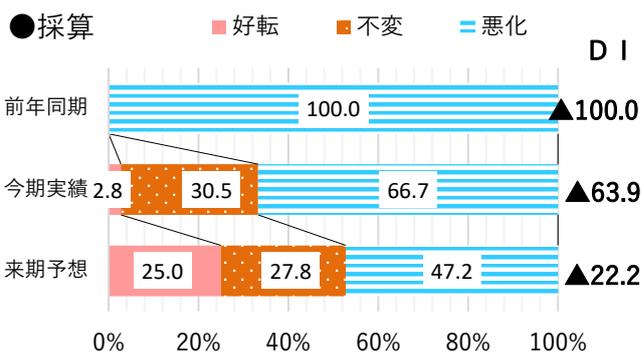
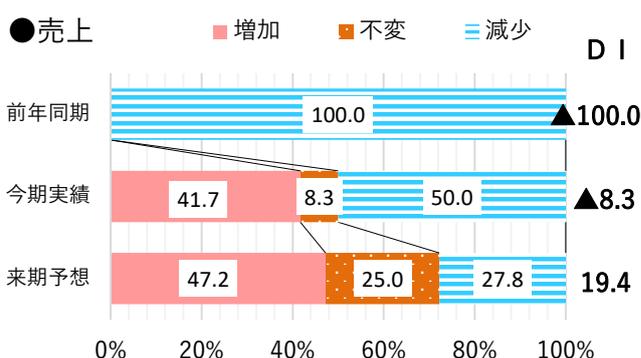
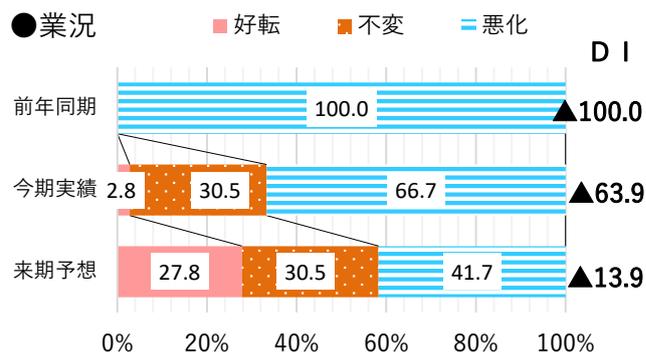
来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲8.3で、前年同期と比べ91.7ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲63.9で、前年同期と比べ36.1ポイント上昇し、大幅に好転しました。

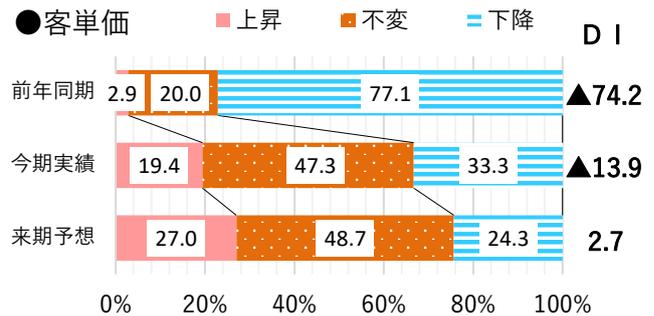
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

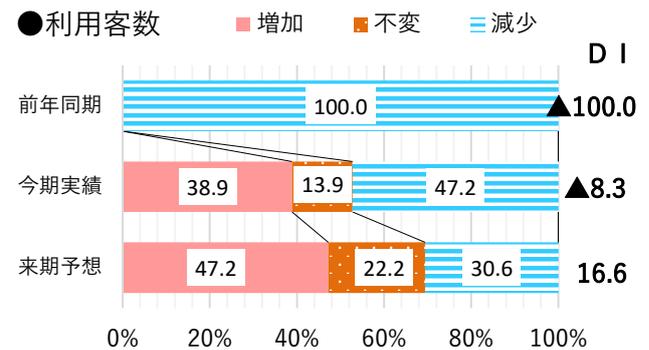
今期の客単価DIは▲13.9で、前年同期と比べ60.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価が上昇に転じると予想しています。



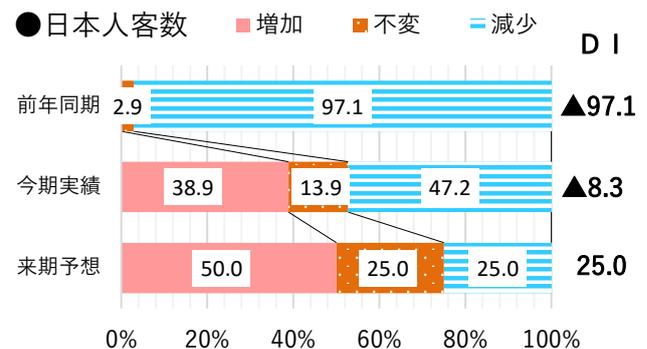
今期の利用客数DIは▲8.3で、前年同期と比べ91.7ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、利用客数が増加に転じると予想しています。



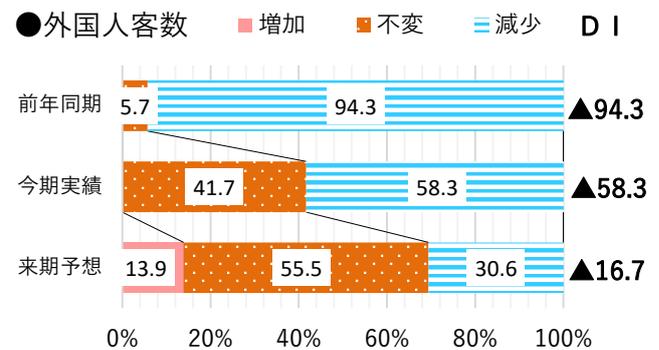
今期の日本人客数DIは▲8.3で、前年同期と比べ88.8ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、日本人客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲58.3で、前年同期と比べ36.0ポイント上昇し、大幅に増加しました。

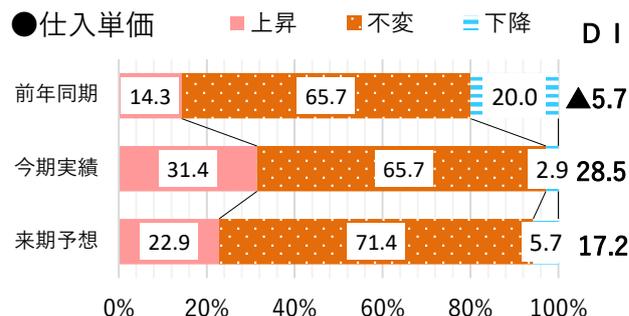
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは28.5で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

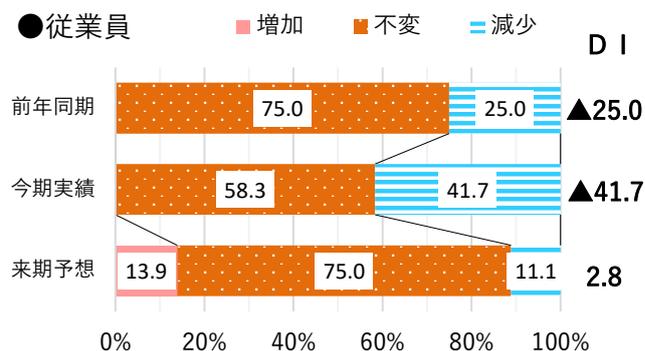
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



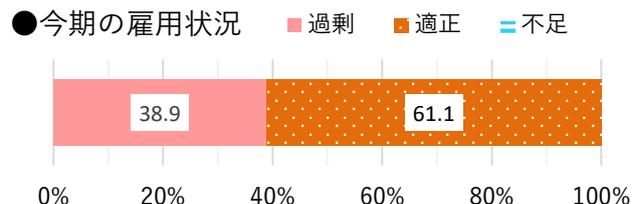
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲41.7で、前年同期と比べ16.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は38.9%、適正であると回答した企業の割合は61.1%、不足していると回答した企業はありませんでした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の41.6%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、過剰である」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	6
	適正	15
	不足	0
減少した	過剰	8
	適正	7
	不足	0

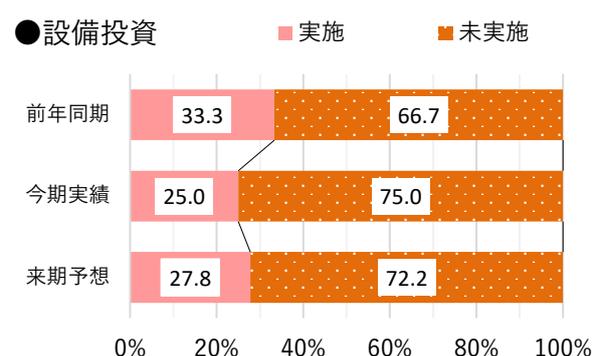
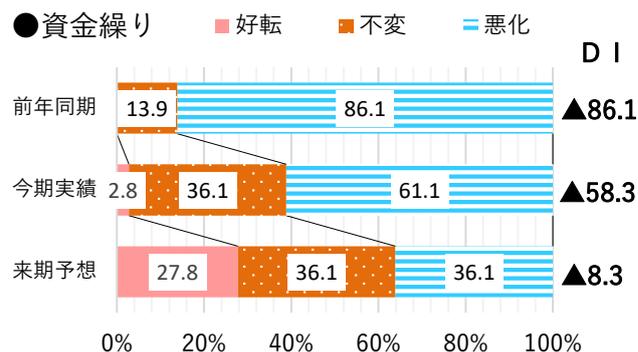
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲58.3で、前年同期と比べ27.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は25.0%で、前年同期と比べて8.3%減少しました。投資内容は、1位が「その他」、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は27.8%で、増加を予想しています。

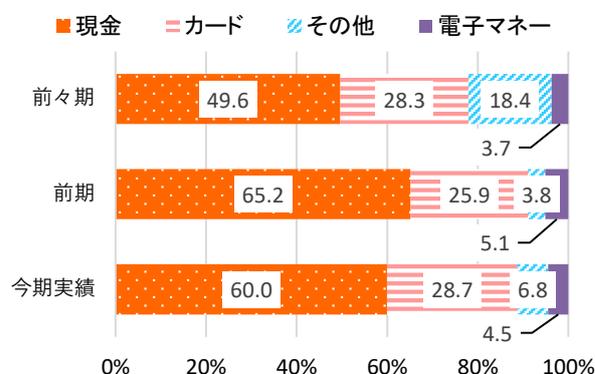


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で60.0%、2位がカードで28.7%、3位がその他で6.8%、4位が電子マネーで4.5%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイート等の食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込、ポイント決済です。

### ●今期利用客の決済方法(%)

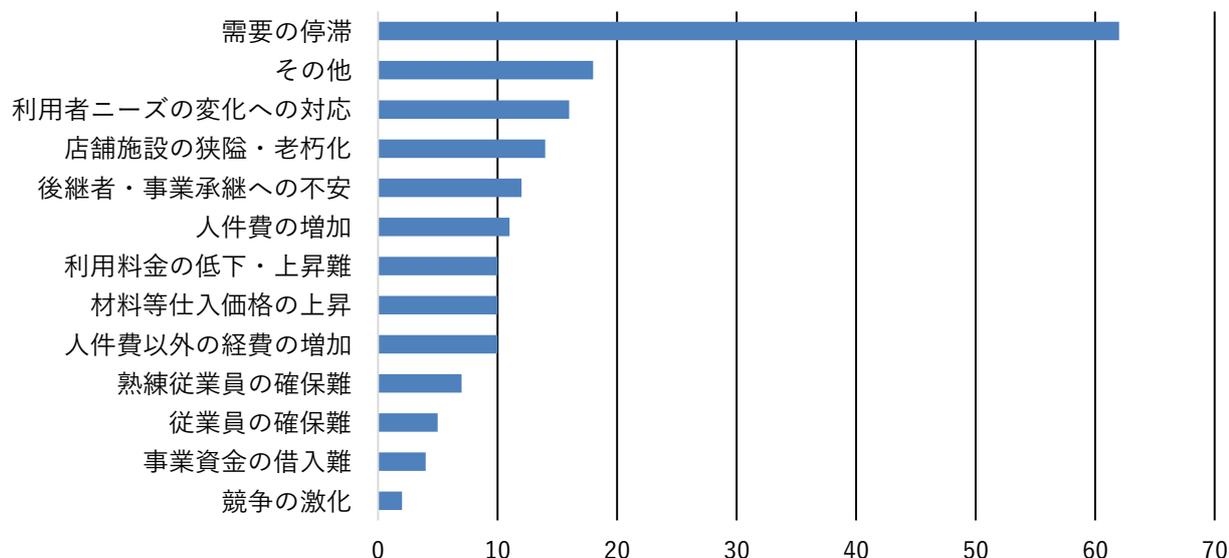


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は34.2%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 国内需要の目途が立たず、インバウンド需要の回復の見込みもないため、収支が安定せず、人材確保に消極的になっている。(ホテル)
- 昨年度比では好転したが、2019年度比では4割の売上に留まり、厳しい状況にある。(ホテル)
- 新型コロナウイルス終息の見通しが立たない。もう少し時間がかかると思われる。(ホテル)
- 新型コロナウイルスにより、業況は悪化の一途を辿っている。(ホテル)
- インバウンドの利用は、昨年を引き続き皆無に等しい。(ホテル)
- 借入金で持ちこたえているが、厳しい状況である。(ホテル)
- 昨年と比較すると好転したが、一昨年と比較すると厳しい状況が続いている。(コテージ・ペンション)
- コロナ禍により観光需要、飲食店需要が落ち込み、苦境が続いている。ワクチンの接種が始まったが、国民に行き渡る時期が分からないので、当面は効果的な打開策を立てられない。もう1年この状況が続くと自社の存続に関わる。(土産品)
- インバウンドは多少来店するようになったが、例年とは比べ物にならないくらい観光客が少ない。修学旅行のキャンセルなども業況を悪化させた。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響により、売上はほぼ無く、昨年に引き続き厳しい状況にある。(土産品)
- 地元客の支えにより、前年の売上は超えたが、いまだ低水準にある。(土産品)
- 緊急事態宣言の延長を受け、人流がなく、売上は減少している。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、今後の見通しが立たない。(土産品)
- 観光客の減少と緊急事態宣言の影響で業況が悪化した。(土産品)
- 昨年同期の緊急事態宣言下の状況と比べ、好転した。(土産品)
- 緊急事態宣言が解除されなければ観光客は来ないため、休業を続けるしかない。(飲食店)
- 5月の緊急事態宣言が出されるまでは、昨年度より売上は良かった。(飲食店)
- 若者の利用が多く、丼の売上が好調だった。(飲食店)
- 昨年同期と同様、最悪の状況だった。(飲食店)
- 利用者数と売上は昨年同期比で増加したが、一昨年同期比では、91%減少した。(水運業)

- 悪天候と新型コロナウイルスの影響で、昨年同期比の売上が84%減少した。駐車場の売上は、昨年同期比で73%減少した。（船舶賃渡業）
- 昨年同様、インバウンドの利用は無く、5月の緊急事態宣言によって予約のキャンセルが続いた。4月の売上は前年同期比110%まで回復し、5月もゴールデンウィークまでは好調だったが、6月は前年同期比80%まで落ち込んだ。（レンタカー）
- 緊急事態宣言期間中は、道外客の利用減少により売上が伸び悩んだ。（レンタカー）
- 昨年4月～5月は休業していたため、前年同期比の売上、客単価、利用客数は好転した。（社会教育）

## [来期の業況について]

- GoToキャンペーンの実施の有無によって、客数が大きく変わると思われる。（ホテル）
- 昨年のGoToキャンペーンのような施策が無ければ、事業の継続は難しい。（ホテル）
- インバウンドの回復と国内需要の安定化が、収支の好転に必要である。（ホテル）
- 猶予されていた社会保険料の支払いが大きな負担となる。新型コロナウイルスの感染状況によって経営が左右されるため、見通しが立てにくい。（コテージ・ペンション）
- 緊急事態宣言がいつまで続くのか分からないため、借入金によって何とか事業を続けるしかない。個々の企業や業界団体の工夫、努力では対応できない。助成金は使い切り、借入にも限度がある。事業規模の縮小も検討している。（土産品）
- 新型コロナウイルスの感染者が減少し、国内観光客の増加により業況が好転すると思われる。（土産品）
- コロナウイルスのワクチン接種が進み、人出が回復すれば売上は増加すると思われる。（土産品）
- 新型コロナウイルスのワクチン接種が進むと思われるが、業況への影響は分からない。（土産品）
- 観光客の回復には、しばらく時間がかかると思う。（土産品）
- ワクチン接種の効果に期待する。（土産品）
- オリンピックが終わり、ワクチンの接種が進むことで、状況は落ち着くと思われる。（飲食店）
- ワクチン接種が進めば客足が回復し、今期より売上が減少することは無いと思う。（飲食店）
- 緊急事態宣言が解除されれば、多少は業況が好転するのではないか。（飲食店）
- アルコールが提供できるようになれば、売上が回復すると思う。（飲食店）
- 緊急事態宣言が発出されなければ、売上の増加が期待できる。（水運）
- 新型コロナウイルスが終息すれば、例年並みの収入を見込める。（船舶賃渡業）
- 7月からはレジャーシーズンのため、今期以上の売上を見込む。（レンタカー）
- 今後の業績は新型コロナウイルスの変異株の拡大状況によって大きく左右される。ワクチンの普及による景気回復を期待する。（社会教育）

# サービス業

## 業況、売上、採算

今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲30.5で、前年同期(2020.4～6)と比べ33.8ポイント上昇し、大幅に好転しました。

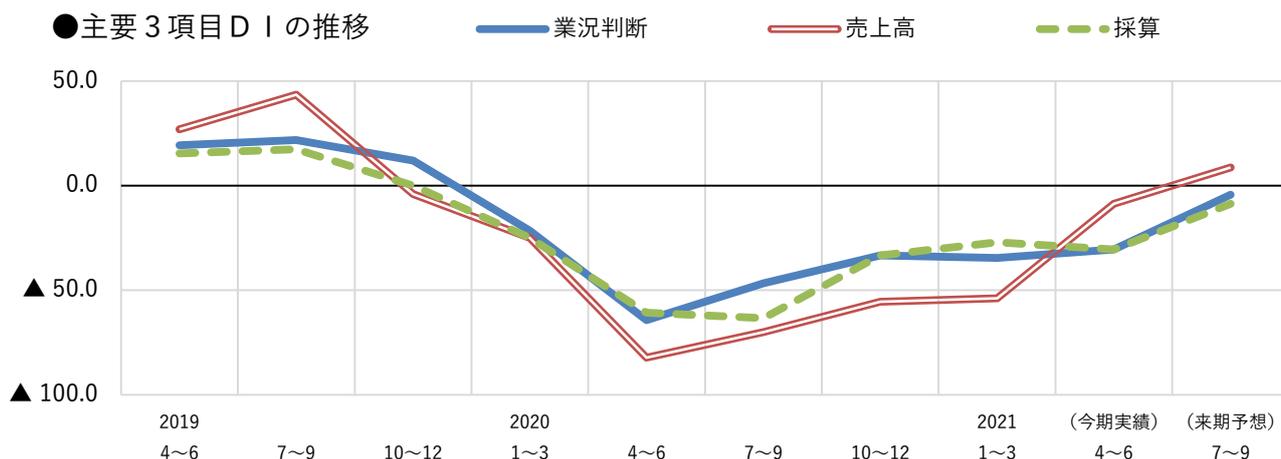
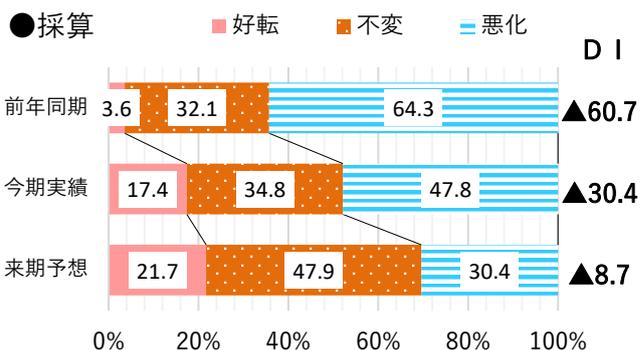
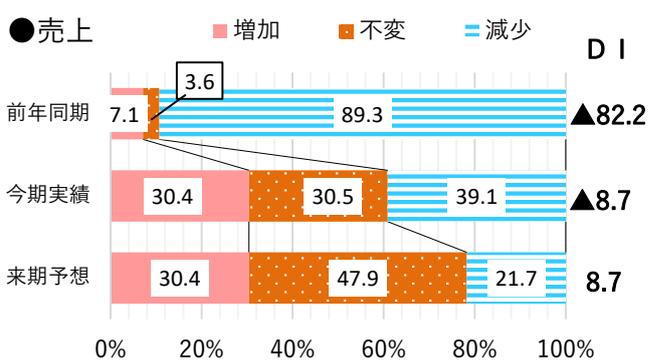
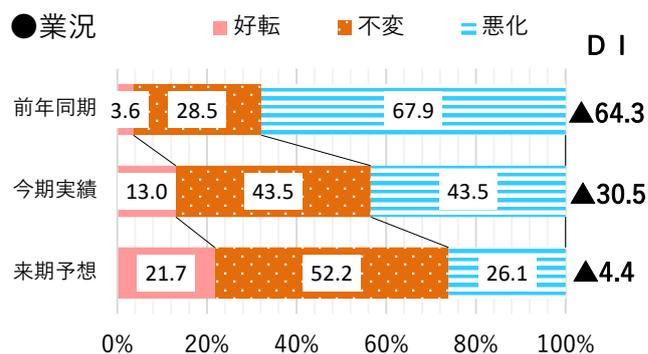
来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲8.7で、前年同期と比べ73.5ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

今期の採算DIは▲30.4で、前年同期と比べ30.3ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



## 客単価、利用客数、仕入単価

今期の客単価DIは▲22.8で、前年同期と比べ32.8ポイントと大幅に上昇しました。

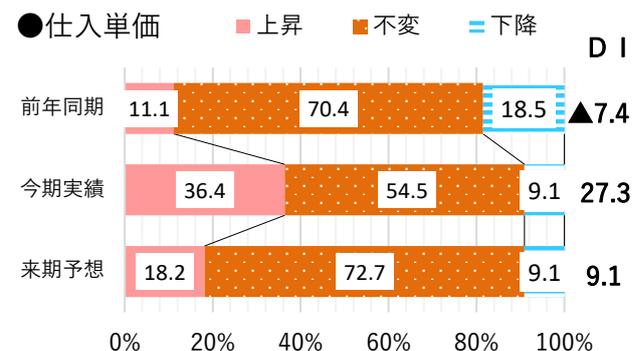
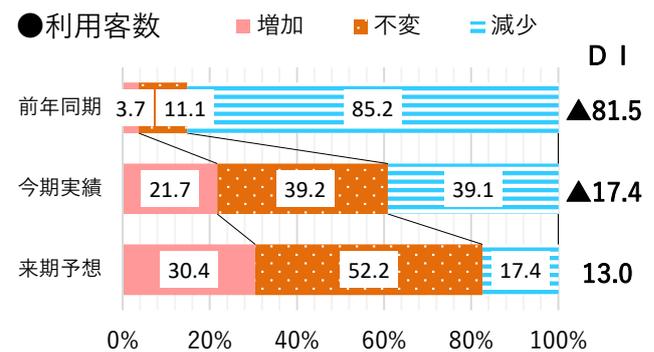
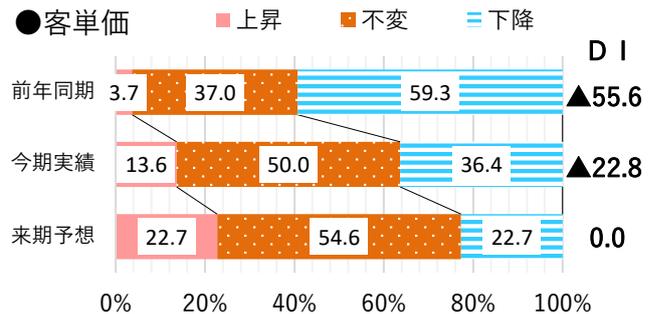
来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。

今期の利用客数DIは▲17.4で、前年同期と比べ64.1ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、利用客数が増加に転じると予想しています。

今期の仕入単価DIは27.3で、前年同期と比べ34.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

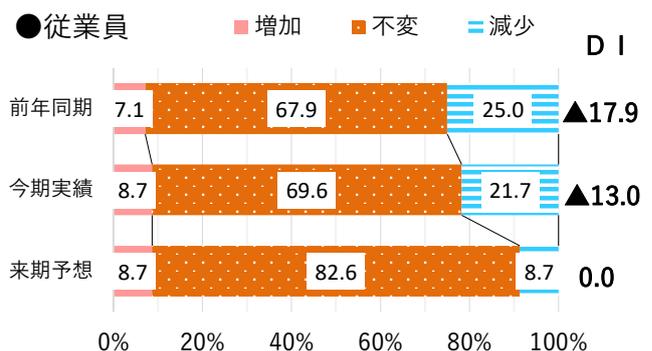
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲13.0で、前年同期と比べ4.9ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は13.0%、適正であると回答した企業の割合は69.6%、不足していると回答した企業の割合は17.4%でした。



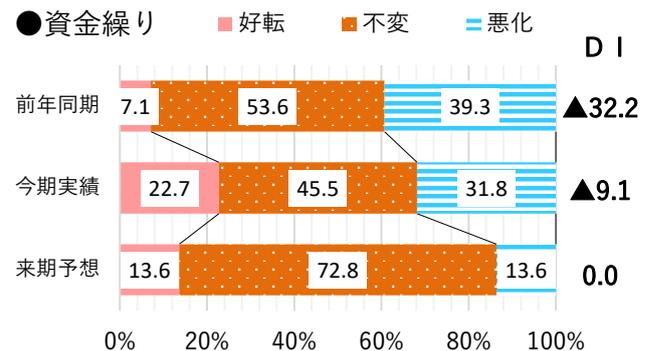
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の56.5%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	2

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答でした。

## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲9.1で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

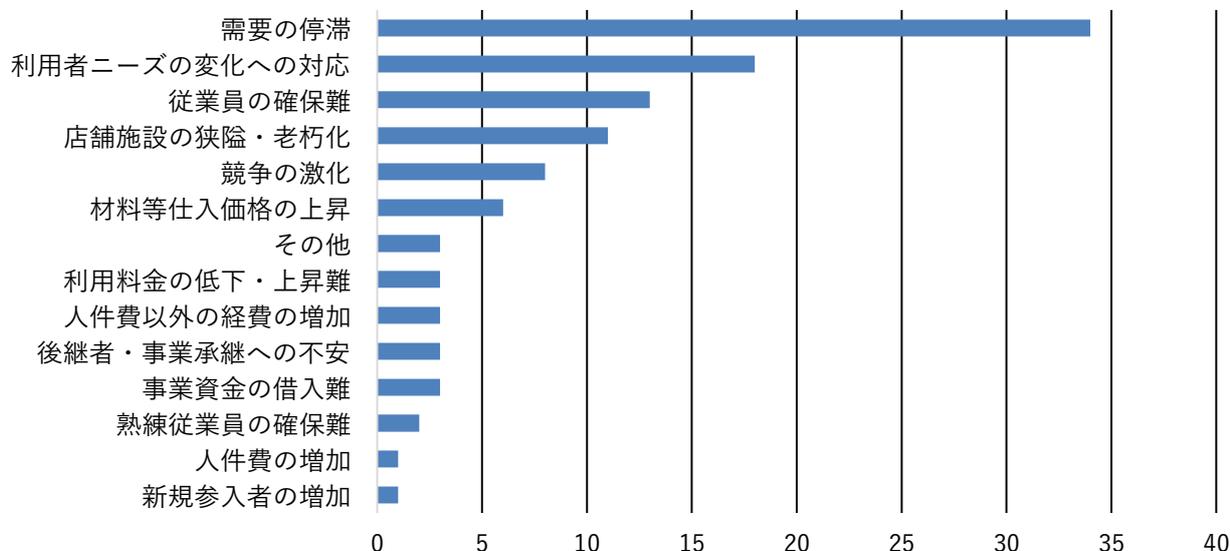
設備投資を実施した企業の割合は17.4%で、前年同期と比べ4.0%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「土地」、「建物」、「サービス設備」、「付帯施設」、「福利厚生」（同位）の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は21.7%で、増加を予想しています。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 緊急事態宣言に伴う休業要請により、売上が減少した。（飲食店）
- 従業員が有休を最低5日取得しなければならないため、余剰人員を確保しているが、今後の給与負担が大きくなる可能性がある。（廃棄物処理業）
- 観光業、飲食店の売上が減少した影響で、自社の業況が悪化した。（廃棄物処理業）
- 昨年同期と比べ、変化は無い。（保険業）
- 全てにおいて悪化したが、仕入価格の見直しと人材確保に努め、従業員のスキルに合わせた最低賃金の引き上げに取り組むたい。（出版業）
- 新型コロナウイルスの影響でリモート授業が増加し、地元での受講者が増加した。（教養・技能教授業）
- 利用者は減少したが、客単価の増加によって売上が増加した。（スポーツ施設）
- 新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、旅行の問合せが増えているが、業況が好転するには時間がかかると思う。（旅行代理店）
- 昨年同期の業況が非常に悪かったので、前年同期比の業況は好転となった。4月から料金を改定したため、客単価が少し上昇した。従業員が有休を取得しやすくしている分、人手不足が生じている。1年かけてお客様が密集しない空間づくりに取り組んだ。（美容業）
- 前年同期は学校の休校や企業の休業により売上が減少したが、今期はやや回復した。（写真業）
- 客数は1日あたり3～5名程度で、仕入単価は5%程度上昇している。（写真業）

### [来期の業況について]

- 緊急事態宣言解除後の消費行動の回復に期待する。（飲食店）
- ワクチン接種が進み、人出が回復すれば好転に期待できる。（飲食店）
- 新型コロナウイルスが終息しても、市の経済が大幅に回復するとは思えない。（廃棄物処理業）
- 事業を見直し、臨機応変に仕事に取り組むたい。（出版業）
- ワクチンが国民に行き渡れば、好転すると思われる。（保険業）
- 今までが好調だった反動として、業況の悪化を懸念している。（教養・技能教授業）

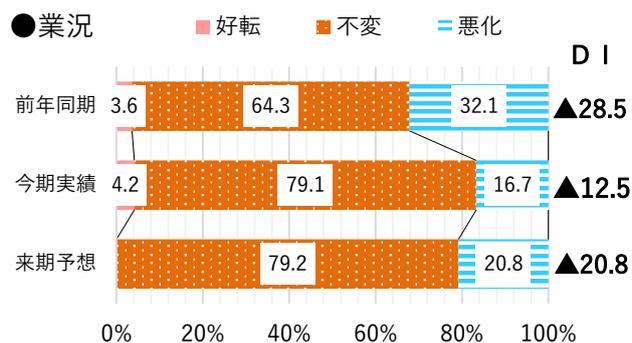
- ワクチン接種の状況に左右される。(旅行代理店)
- ワクチン接種が進んでいれば、通常通りの営業に戻ると思う。(スポーツ施設)
- 新規客は少ないと思われるので、写真のネット販売に取り組みたい。(写真業)
- 今までの状況を踏まえると、今期と変わらないと思う。(美容業)

# 建設業

## 業況、売上、採算

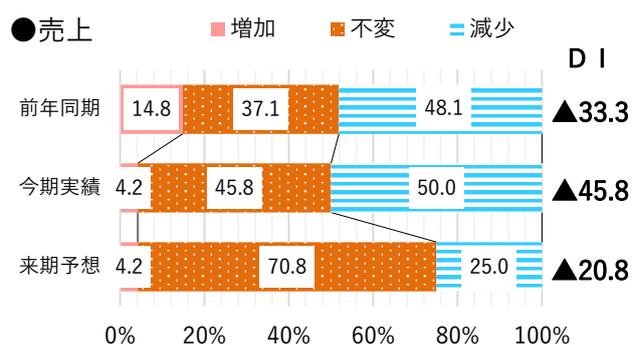
今期（2021.4～6）の業況判断DIは▲12.5で、前年同期(2020.4～6)と比べ16.0ポイント上昇しました。

来期（2021.7～9）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



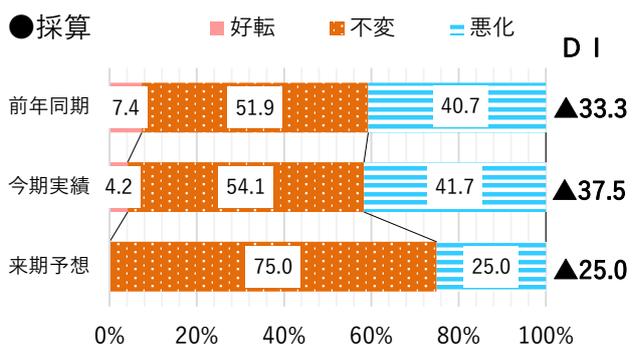
今期の売上高DIは▲45.8で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

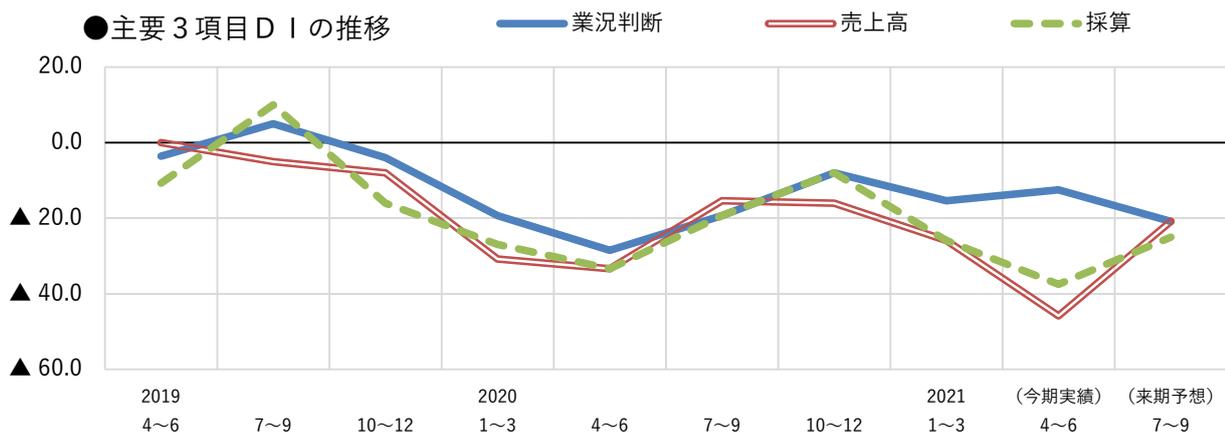


今期の採算DIは▲37.5で、前年同期と比べ4.2ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



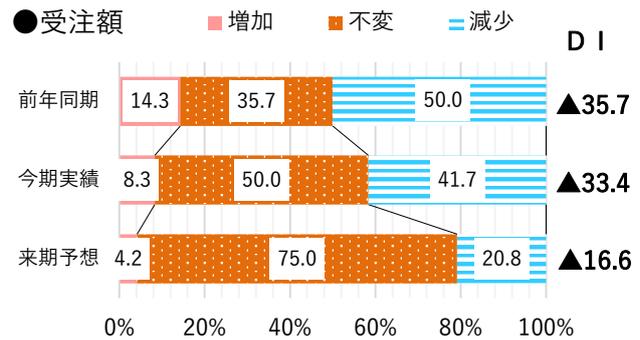
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

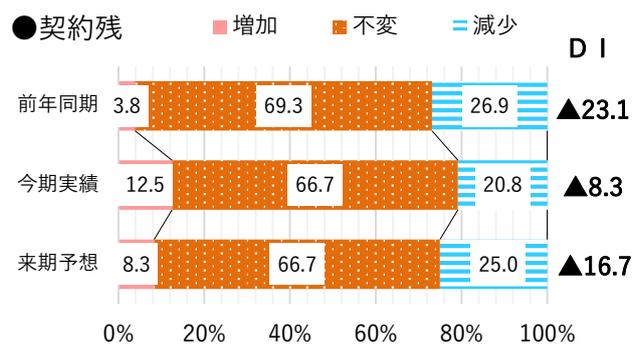
今期の受注額DIは▲33.4で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

来期は、受注額の減少傾向が弱まると予想しています。



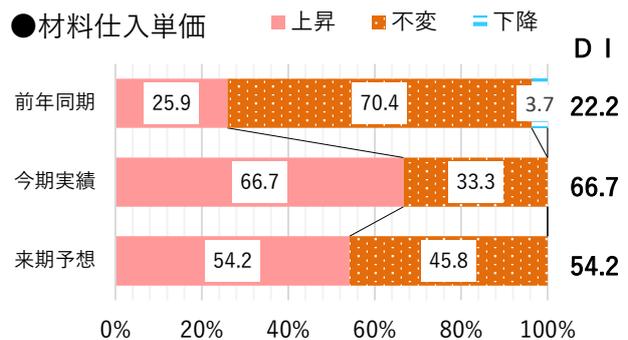
今期の契約残DIは▲8.3で、前年同期と比べ14.8ポイント上昇しました。

来期は、契約残の減少傾向が強まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは66.7で、前年同期と比べ44.5ポイントと大幅に上昇しました。

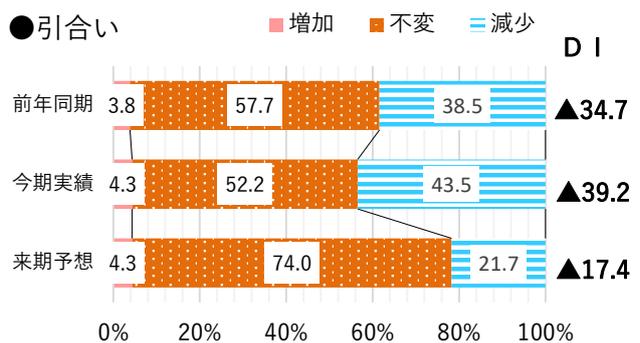
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲39.2で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

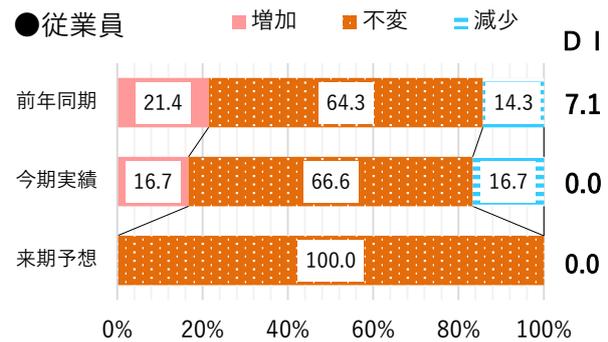
来期は、引合いの減少傾向が弱まると予想しています。



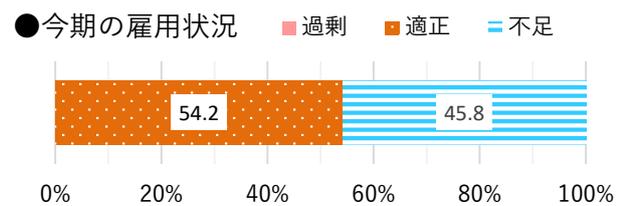
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数に変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は54.2%、不足していると回答した企業の割合は45.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、建設業全体の33.3%を占めています。

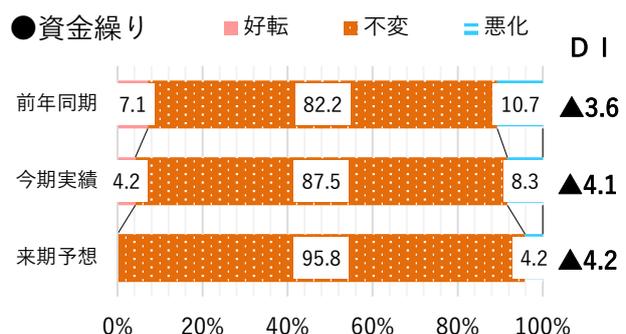
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

## 資金繰り、設備投資

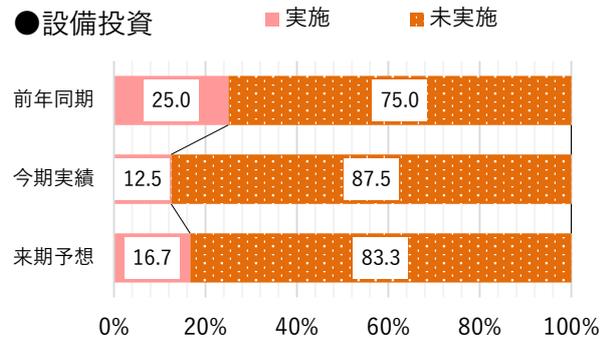
今期の資金繰りDIは▲4.1で、前年同期と比べ0.5ポイント低下しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



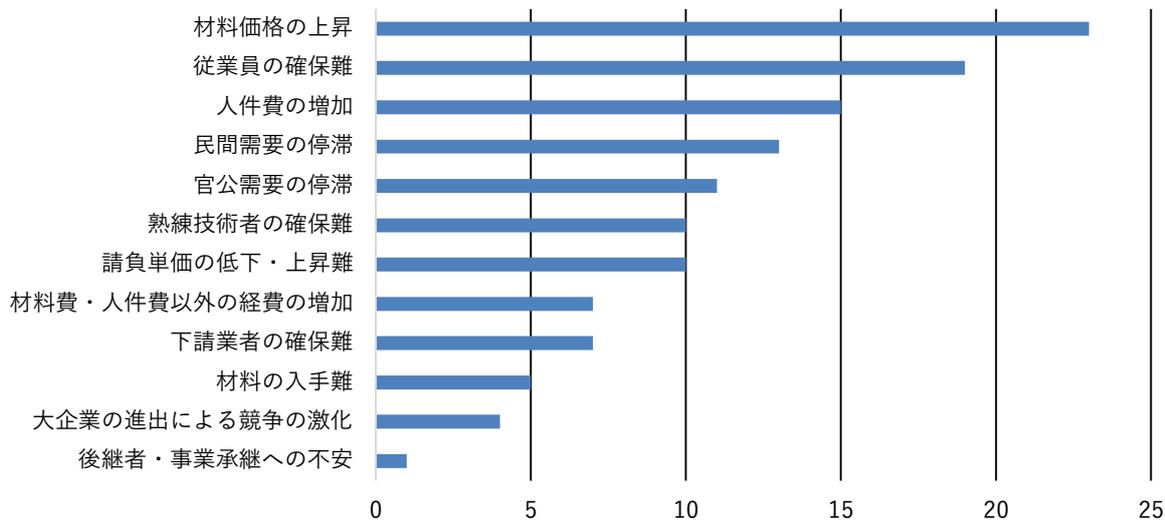
設備投資を実施した企業の割合は12.5%で、前年同期と比べ12.5%低下しました。投資内容は、1位が「土地」、2位が「建物」、「OA機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は16.7%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 材料価格が上昇した。（一般土木工事業）
- 受注のペースが例年より鈍く、引合いは前年同期比6割の状況にある。今のところ、仕入単価の上昇分を工事請負額に転嫁できているが、今後もこのまま推移するとは思えない。（一般管工事業）
- 材料価格と運賃が上昇した。（職別工事業）
- 従業員数が増加し、業況は好転した。（電気工事業）
- 新型コロナウイルスの影響は大きくないが、人材確保難のため、受注件数が減少した。（設備工事業）
- 公共工事の件数は例年と同程度だったが、民間工事の件数は減少した。（造園業）
- 売上の増減が激しかった。（造園業）

[来期の業況について]

- 引合いが好転する兆しはない。（一般管工事業）
- 型枠用の木材の仕入が困難になると思われる。（職別工事業）
- 手持工事が多く、今期と同様と思われる。（電気工事業）
- 今期と同様に人材確保難が予想される。（設備工事業）
- 新型コロナウイルスによる売上の減少を見込む。（造園業）
- 新型コロナウイルスのため、予想は難しい。（造園業）

# 市内企業倒産状況

2021年4月~6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

**倒産件数は4件、前年同期比増加**  
**負債総額は5,700万円、前年同期比増加**

	倒産件数		負債総額
	<b>4件</b>		<b>5,700万円</b>
前年同期比	件数 +4件 (前年同期 0件)	負債	+5,700万円 (前年同期 0円)

---

■4月  
飲食業（負債1,000万円：販売不振による破産）、木製容器製造（負債1,000万円：既往のシワ寄せによる破産）の2件が発生した。

■5月  
貿易業（負債2,300万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

■6月  
すし店（負債1,400万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2021年4月~6月、小樽市建設部調べ

**建築確認申請受付件数は125件、前年同期比増加**  
**新設着工住宅戸数は74棟195戸、前年同期比増加**

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	<b>125件</b>		<b>74棟195戸</b>
前年同期比	件数 +31件 (前年同期 94件)	戸数	+26棟121戸 (前年同期 48棟74戸)

※変更確認又は変更通知を除く。